

2025 年 1 月

食料安全保障月報 (第 43 号)



令和 7 年 1 月 31 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみならず、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報(生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等)について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2025年1月食料安全保障月報（第43号）

目次

概要編

I	2025年1月の主な動き	1
II	2025年1月の穀物等の国際価格の動向	4
III	2024/25年度の穀物需給（予測）のポイント	4
IV	2024/25年度の油糧種子需給（予測）のポイント	4
V	今月の注目情報「EUにおける小麦の生産・輸出入動向」	5

（資料）

1-1～3	穀物等の主要輸出国の生産量（過去10年平均との増減比較）	10
1-4	穀物等の国際価格の動向	13
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	14
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	15
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	17
5	食品小売価格の動向	21
6	海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）	22
7	FAO食料価格指数	24

今月のコラム

「タイのコメ貿易について」	25
---------------	----

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
<米国>	2025/26年度の冬小麦の作付面積は前年度から2.2%増加の見込み	
<カナダ>	2025/26年度の作付面積は前年度から1.8%増加の見込み(AAFC)	
<豪州>	2024/25年度の輸出量は前年度から増加し21.9百万トンの見込み(ABARES)	
<EU27>	2024/25年度の生産量は前月から下方修正され119.1百万トンの見込み(EC)	
<ロシア>	2024/25年度の輸出量は前月から下方修正され46.0百万トンの見込み	
<ウクライナ>	2024/25年度の輸出量は前月から下方修正され16.0百万トンの見込み	
<中国>	2024/25年度の輸入量は前月から下方修正され10.5百万トンの見込み	

2	とうもろこし	9
	＜米国＞	2024/25年度の生産量は史上最高の前年度から3.1%減少する見込み
	＜ブラジル＞	2024/25年度の生産量は前年度から4.1%増加する見込み
	＜アルゼンチン＞	2024/25年度の生産量は、前年度から2.0%増加する見込み
	＜ウクライナ＞	2024/25年度の生産量は、前年度より18.5%減少する見込み
	＜中国＞	2024/25年度の生産量は、前年度から2.1%増加する見込み
3	コメ	15
	＜タイ＞	2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.5%増加する見込み
	＜米国＞	2024/25年度の生産量は、前年度に比べ1.9%増加する見込み
	＜中国＞	2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.5%増加する見込み
	＜インド＞	2024/25年度の生産量は、前年度に比べ5.2%増加する見込み
	＜ベトナム＞	2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.8%増加する見込み
II	油糧種子	
	大豆	21
	＜米国＞	2024/25年度の生産量は前年度から4.9%増加する見込み
	＜ブラジル＞	2024/25年度の生産量は前年度から10.5%増加する見込み
	＜カナダ＞	2024/25年度の生産量は前年度から8.4%増加する見込み (AAFC)
	＜中国＞	2024/25年度の生産量は、史上最高の前年度から0.9%減少する見込み
	＜アルゼンチン＞	2024/25年度の生産量は、前年度から7.9%増加する見込み
	(参考1) 本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2024/25年度)	27
	(参考2) 単位換算表	27
	(参考3) 各国のクロップカレンダー一覧 (主要品目毎)	28

【利用上の注意】

表紙写真：フィリピン リザール県テレスサ市ドルムバヤン村の水田。農業組合の圃場では乾季米が順調に生長している。(リザール県 2025年1月8日) 撮影者：八木橋史子

(概要編)

I 2025年1月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の2024/25年度の作況について、北半球での収穫がほぼ終了した一方、南半球では大豆等の作物が生育期を迎えている。

2024/25年度の状況について、品目別にみると、1月の米国農務省（USDA）の需給報告によれば、小麦については、EU、ロシア、英国で単収・収穫面積ともに前年度より減少するものの、豪州、米国、インドで単収・収穫面積ともに増加、カザフスタン、中国、カナダで単収が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022年3月に史上最高を更新した小麦の国際相場は侵攻時の水準を下回ったものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する4者合意（黒海穀物イニシアティブ）については2023年7月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EU向け輸出の動向も含め注視が必要。

とうもろこしについては、中国、ブラジル、南アフリカで単収・収穫面積ともに前年度より増加するものの、米国で収穫面積が減少、ウクライナで単収・収穫面積ともに減少、EU、ロシアで単収が減少すること等から、世界全体の生産量は前年度を下回る見通し。

大豆については、ブラジル、米国、アルゼンチンで単収・収穫面積ともに増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO（国連食糧農業機関）が公表している食料価格指数については、主に砂糖、乳製品、植物油、穀物の価格の低下等により、11月の127.6から、12月（最新値）は127.0に下落（参考：2023年12月119.1、2022年12月131.8、2021年12月133.7、2020年12月108.5）。海上運賃については、バルチック海運指数（穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数）が、直近5カ年の平均値の約5割の水準で推移。

早期注意段階の継続について

緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、2021年7月に、主要輸入農産物の国際価格や海上運賃の上昇、国際的な物流の遅れ等の当時の状況を踏まえて適用。2025年1月も引き続き適用した一方で、主要穀物等の国際相場や海上運賃についてはここ最近下落傾向で推移しており、引き続きその動向に留意。

【参考】早期注意段階について（農林水産省HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



ウクライナの生産・輸出動向

USDAの1月需給報告によれば、2024/25年度の小麦の生産量は、収穫面積は増加するものの単収が減少することから、前年度より0.4%減少し2,290万トンとなる見込み。また、とうもろこしの生産量は、収穫面積・単収ともに減少することから、前年度より18%減少し2,650万トンとなる見込み。2024/25年度の小麦の輸出量は、生産量及び期首在庫の減少を受け、前年度より14%減少し1,600万トンとなる見込み。とうもろこしの輸出量も前年度より22%減少し2,300万トンとなる見込み。

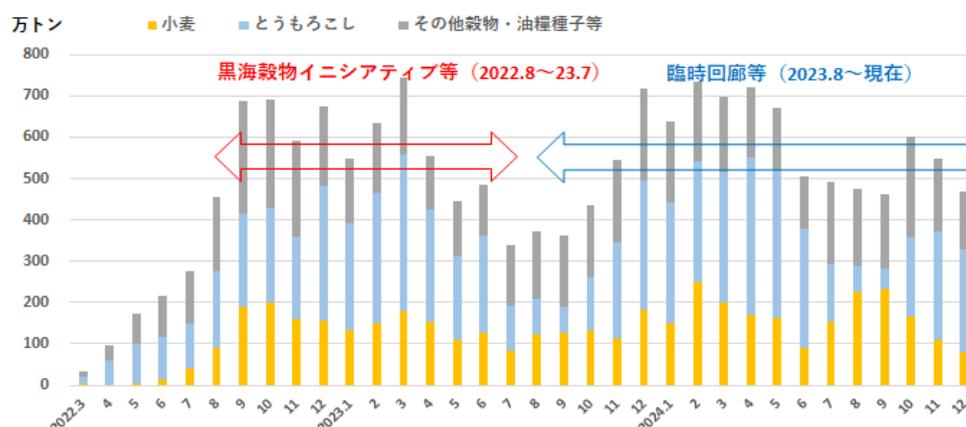
ウクライナ農業政策食料省によれば、2024/25年度の小麦及びとうもろこしの収穫作業は終了した。また、2025/26年度の冬小麦の作付作業も終了している。ウクライナ気象センターによれば、12月上旬から中旬にかけて温暖な天候に恵まれ、11月上旬に一旦生長を停止していた冬小麦も最低限越冬に耐えうる状態まで生長した。12月末時点、大部分の圃場で冬小麦の作柄は並みから良好。今後、圃場がスノーカバー（積雪）に覆われ、気温と地中温度に大きな変動がなければ、冬枯れ等の被害を最小限に抑えて冬を越すことができると予想される。

臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年8月以降、オデーサ港等3港（オデーサ港、チョルノモルシク港、ピブジェヌイ港）からの輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。ウクライナ農業政策食料省によれば、同イニシアティブ履行期間中の輸出実績（2022年8月～23年7月）は、穀物・油糧種子等6,846万トン（うち、小麦1,728万トン、とうもろこし2,949万トン）。

ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関（IMO）に通報し、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU域内を經由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が大半を占めている。

（参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022年3月～2024年12月）



出典：農業政策食料省のデータをもとに農林水産省で作成

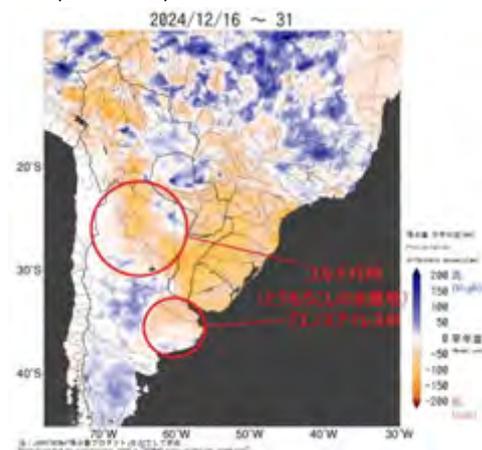
注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

1 アルゼンチン：とうもろこしの作付作業が終盤

USDA によれば、2024/25 年度のアグゼンチンのとうもろこし生産量は 5,100 万トンと、前年度から 2%増加する見込み。単収は 7.97 トン/ヘクタールと、前年度から 12%増加する見込み。収穫面積は 640 万ヘクタールと、前年度から 9%減少する見込み。

2024 年 12 月末現在、とうもろこしの作付進捗率は約 87%と平年を上回っている。これは、昨年、遅植えとうもろこしに病害虫のヨコバイが大量発生し、作柄が悪化した一方、早植えとうもろこしは被害を免れたことから、多くの農家が例年より多くの早植えとうもろこしを作付けたことによる。現在、作付期及び生育初期の段階では十分な土壌水分量に恵まれたものの、12 月末にかけて乾燥が続いており、更なる降雨が必要となっている。

図：アルゼンチンの降雨量（平年対差）
(2024. 12)



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム (JASMAI)

2 ロシア：2024/25 年度の穀物輸出枠が過去 5 年間で最小

USDA によれば、世界最大の小麦輸出国であるロシアの 2024/25 年度の小麦輸出量は 4,600 万トンと、前月予測から 100 万トン下方修正され、前年度から 17%減少する見込み。2024 年 12 月 20 日、ロシア政府は 2024/25 年度後半（2025 年 2 月 15 日～6 月 30 日）の穀物輸出枠を発表。輸出枠は 1,060 万トンと過去 5 年で最小となる。

ロシアの 2024/25 年度の小麦生産量は 8,150 万トンと、前年度比 11%減の見込み。ロシアは、期首在庫の減少により 2024/25 年度の供給量は前年度比 12%減となっているにもかかわらず、EU の輸出余力の減少により年度前半は記録的な輸出量となった。現地輸送会社によれば、2024 年 7 月～12 月のロシアの小麦輸出量は 2,940 万トンに達し、前年度の記録（2,770 万トン）を上回った。ロシアの旺盛な小麦輸出により国内供給が枯渇しており、現地情報会社によれば、12 月 1 日現在の農場小麦在庫量は前年同期比 25%減となっている。国内供給の維持と食料価格のインフレ抑制のため、ロシア政府は年度後半に過去 5 年で最小となる穀物輸出枠を適用するとともに小麦の可変輸出関税を課している。当該措置によりロシアの小麦輸出量は 2 月から減少し、ロシア産小麦の主要輸入国であるエジプト、トルコ、バングラデシュ、サウジアラビアは、アルゼンチン、豪州、EU 等の他の小麦供給国に輸入先を振り替える必要があるとみられている。

3 米国：2024/25 年度の大豆粕の輸出量が過去最高を記録

USDA によれば、2024/25 年度、米国は世界第 2 位の大豆粕の生産・消費国であり、アルゼンチン、ブラジルに次ぐ世界第 3 位の大豆粕の輸出国となる見込み。米国の大豆粕圧搾能力の拡大が米国産大豆粕の大量供給と競争力のある価格に繋がるため、世界の大豆粕貿易における米国のシェアは拡大すると見込まれる。

従来は大豆粕の需要が大豆の圧搾量を牽引してきたが、近年はバイオマス由来のディーゼル燃料生産に利用される大豆油の需要増が大豆粕の圧搾量の拡大を後押ししている。2023/24 年度の米国産大豆の圧搾量は、過去最高の 6,232 万トンに達し、2022/23 年度より 204 万トン増加し、過去 5 年平均を 6%上回った。これにより 2023/24 年度の大豆粕の生産量は過去最高の 4,912 万トンに達した。2024/25 年度も、米国の加工業者はバイオマス由来のディーゼル燃料として大豆油の需要増に対応するため、引き続き圧搾量を増加させることから、大豆粕の生産量と輸出可能な供給量も増加する見込み。

II 2025年1月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、12月末、200ドル/トン台前半で推移。1月に入り、ドル高や低調な輸出等を受けて190ドル/トン台半ばまで下落したものの、低温による米国産冬小麦の作柄悪化懸念や大豆及びとうもろこしのつれ高等を受けて上昇し、1月中旬現在、190ドル/トン台後半で推移。

とうもろこしは、12月末、180ドル/トン台前半で推移。1月に入り、アルゼンチンの高温乾燥及び米国農務省需給報告での米国産生産量の引下げ等を受けて上昇し、1月中旬現在、190ドル/トン台前半で推移。

コメは、12月末、530ドル/トン台後半で推移。1月に入り、タイのバーツ安やアジア及びアフリカからの需要低迷を受けて下落し、1月中旬現在、480ドル/トン台後半で推移。

大豆は、12月末、360ドル/トン台後半で推移。1月に入り、アルゼンチンの高温乾燥及び米国農務省需給報告での米国産の生産量引下げ等を受けて380ドル/トン台前半まで上昇したものの、アルゼンチンの降雨予報を背景に下落し、1月中旬現在、370ドル/トン台後半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場(期近物)、コメはタイ国家貿易委員会価格

III 2024/25年度の穀物需給(予測)のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前年度より0.01%増の28.20億トン。消費量は、前年度より1.4%増の28.55億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り26.7%となる見込み(資料2参照)。

生産量は、前年度より、とうもろこしで減少も、小麦、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.20億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.55億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、コメで増加も、小麦、とうもろこしで減少し、穀物全体で減少し、5.00億トンの見込み。

期末在庫量は、7.61億トンと前年度より減少、期末在庫率も、前年度より減少する見込み。

(注：数値は1月のUSDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

IV 2024/25年度の油糧種子需給(予測)のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り6.80億トン。消費量は前年度を上回り6.65億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率は前年度を上回る21.7%となる見込み。

(注：数値は1月のUSDA「Oilseeds: World Markets and Trade」等による)

V 今月の注目情報：EUにおける小麦の生産・輸出入動向

EUの2024/25年度の小麦の収穫は終了し、欧州委員会の12月19日の情報によれば、2024/25年度の小麦の生産量は119.1百万トンと前年度132.6百万トンから10.2%減となり、2012/13年度（120.1百万トン）以来の低水準となると見込まれている。生産量が大きく減少する中で、EUにおける小麦の輸出入の見通しをまとめた。

注：文中の「2024/25年度」等は市場年度で、EUの小麦は2024年7月から2025年6月。（品目別需給編P.27参照）。

1 小麦の生産動向

(1) EUの生産動向

欧州委員会（EC）によれば、2024/25年度の小麦の生産量は119.1百万トンと、前年度（132.6百万トン）と比べ10.2%減、過去10年平均（133.9百万トン）と比べても11.1%減となり、2012/13年度（120.1百万トン）以来の低水準となる見込み。2023年秋の作付時の降雨や、作付け以降の降雨過多と日照不足により収穫面積が22.3百万ヘクタールと前年度から7.9%減少するとともに、単収も5.34トン/ヘクタールと前年度から2.5%減少することによる。

種類別には、EUでは小麦の生産量の9割以上を普通小麦が占め、その他にデュラム小麦が栽培されているが、2024/25年度の普通小麦の生産量は111.9百万トンと前年度（125.2百万トン）と比べ10.6%減、デュラム小麦も7.2百万トンと前年度（7.4百万トン）と比べ2.7%減となる見込み（図1）。

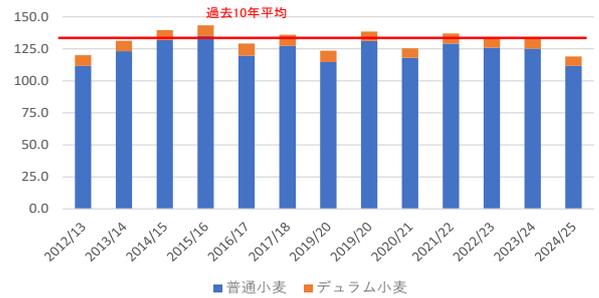
(2) 国別の生産動向

ECによれば、近年の国別小麦生産量は、1位フランス、2位ドイツ、3位ポーランドの順となっており、2024/25年度の小麦生産量はフランスが26.6百万トンと、前年度（36.1百万トン）と比べ26.5%減、ドイツが18.5百万トンと前年度（21.4百万トン）と比べ13.4%減、ポーランドが12.3百万トンと前年度（13.1百万トン）と比べ6.3%減となる見込み（図2）。

EUでは、主に冬小麦が栽培されているが、フランス、ドイツ等の欧州北西部では、2023年秋の降雨による冬小麦の作付面積の減少や、作付け以降の降雨過多と日照不足により小麦生産量は大きく減少する見込み（図3）。

図1 EUの小麦生産量の推移

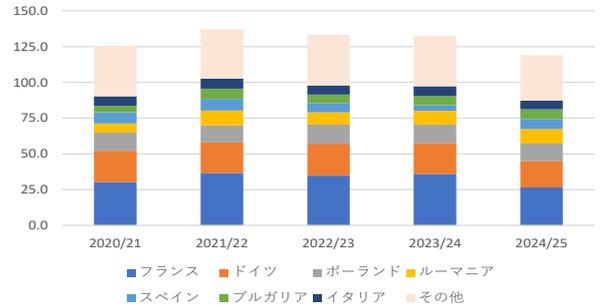
（単位：百万トン）



出典：EC「EU cereals production (usable), area and yield」(2024.12.19)をもとに農林水産省で作成

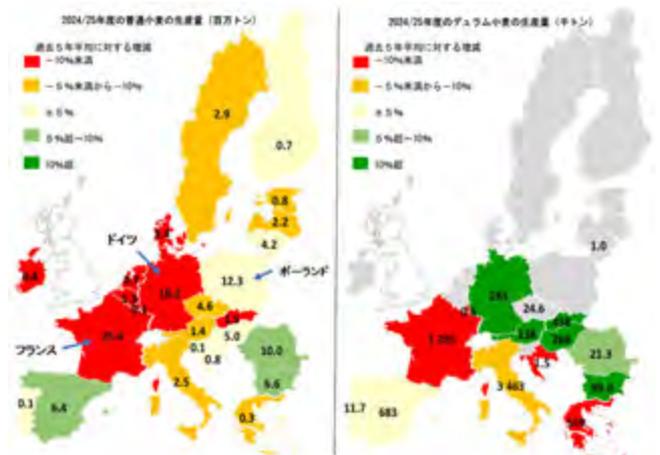
図2 EUにおける国別の小麦生産量の推移

（単位：百万トン）



出典：EC「EU cereals production (usable), area and yield」(2024.12.19)をもとに農林水産省で作成

図3 2024/25年度の小麦生産量と過去5年平均との比較



出典：EC「Cereals market situation」(2024.12.19)より

2 小麦の輸入動向

(1) 2023/24 年度の輸入動向

EC によれば、2023/24 年度の小麦の輸入量は 12.1 百万トンと、飼料用小麦の輸入増加を受け前年度（11.7 百万トン）と比べ 3.5% 増となっている（図 4）。

輸入国別には、スペインが 560.1 万トンと 46.2% を占め、次いでイタリアが 339.2 万トンで 28.0%、ギリシャが 68.4 万トンで 5.6% と続いている（表 1）。

輸入先国別には、ウクライナが 648.7 万トンと 53.6% を占め、次いでカナダが 138.5 万トンで 11.4%、ロシアが 82.1 万トンで 6.8% と続いている（表 2）。

2022/23 年度以降、特にスペインの輸入が急増しており、また、輸入先国ではウクライナからの輸入が急増している。スペインでは、小麦の生産量が 2021/22 年度は豊作で 8.2 百万トンとなったものの、2022/23 年度及び 2023/24 年度は干ばつによりそれぞれ 6.2 百万トン、3.9 百万トンと生産量が大きく減少したことから輸入が急増したと考えられる。なお、USDA 「Grain Production Decline to Test Supply Chain Logistics Resilience in Spain」(2023.6.1) によれば、スペインの穀物消費量の 75% を飼料用が占めており、輸入した小麦の大部分は飼料用に消費されていると考えられる。

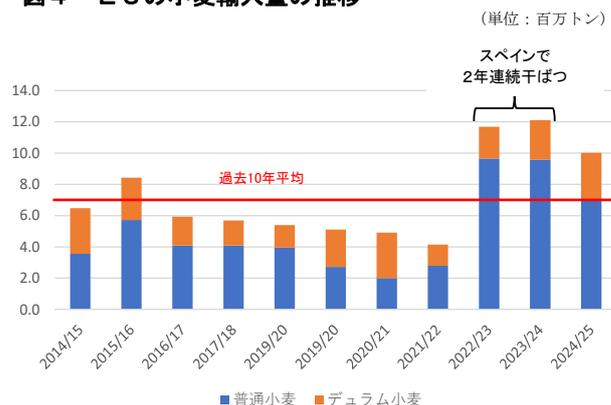
また、ウクライナからの輸入の急増は、ロシアのウクライナ侵攻により、大型船舶による遠距離輸送が困難となりアジア向けなどから EU への輸出のシフトが起こったためと考えられる。輸入増の大部分をスペインが占めており、スペインが輸入する小麦のうち、ウクライナのシェアは、2022/23 年度は 47.1%、2023/24 年度は 76.1% となっている。

(2) 2024/25 年度の輸入動向

EC によれば、2024/25 年度の小麦の輸入量は 10.0 百万トンと、ウクライナの供給量が減少し、同国からの輸入が減少すること等から前年度（12.1 百万トン）と比べ 17.2% 減となる見込み（図 4）。

2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～10 月の輸入量は 369.3 万トンで、輸入国別には、スペインが 174.7 万トンと 47.3% を占め、次いでイタリアが 85.3 万トンで 23.1%、ルーマニアが

図 4 EU の小麦輸入量の推移



出典：EC 「EU trade for cereals」及び「EU Cereals Balance Sheets」(2024.12.19) をもとに農林水産省で作成

表 1 EU の小麦の輸入国別数量

(単位: 万トン)

2020/21年度	2021/22年度	2022/23年度	2023/24年度	2024/25年度 (2024年7月～10月)					
国名	輸入量	国名	輸入量	国名	輸入量				
イタリア	288.2	イタリア	182.1	スペイン	411.3	スペイン	560.1	スペイン	174.7
スペイン	62.8	スペイン	52.4	イタリア	271.8	イタリア	339.2	イタリア	85.3
ベルギー	30.5	アイルランド	43.3	ルーマニア	98.7	ギリシャ	68.4	ルーマニア	20.7
ギリシャ	30.4	ギリシャ	38.4	ポーランド	90.2	ルーマニア	56.1	アイルランド	20.1
アイルランド	27.5	スロベニア	37.1	ギリシャ	49.9	アイルランド	45.7	ポーランド	17.3
その他	53.2	その他	62.6	その他	247.2	その他	141.7	その他	51.1
合計	492.5	合計	415.9	合計	1,169.0	合計	1,211.2	合計	369.3

出典：EC 「EU trade for cereals」(2024.12.19) をもとに農林水産省で作成

表 2 EU の小麦の輸入先国別数量

(単位: 万トン)

2020/21年度	2021/22年度	2022/23年度	2023/24年度	2024/25年度 (2024年7月～10月)					
国名	輸入量	国名	輸入量	国名	輸入量				
カナダ	227.0	カナダ	79.0	ウクライナ	617.4	ウクライナ	648.7	ウクライナ	219.9
米国	65.6	英国	76.9	カナダ	189.0	カナダ	138.5	カナダ	42.1
ウクライナ	62.8	ロシア	54.5	英国	176.5	ロシア	82.1	モルドバ	28.2
英国	33.9	セルビア	43.5	ロシア	36.4	トルコ	76.8	米国	25.7
ロシア	31.3	ウクライナ	35.4	米国	36.1	モルドバ	73.6	トルコ	18.2
その他	71.8	その他	126.6	その他	113.5	その他	191.5	その他	35.3
合計	492.5	合計	415.9	合計	1,169.0	合計	1,211.2	合計	369.3

出典：EC 「EU trade for cereals」(2024.12.19) をもとに農林水産省で作成

20.7 万トンで 5.6%と続いている（表 1）。

同期間の輸入先国別には、ウクライナが 219.9 万トンと 59.5%を占め、次いでカナダ 42.1 万トンで 11.4%、モルドバが 28.2 万トンで 7.6%と続いている（表 2）。

2024/25 年度のスペインの小麦生産量は 7.1 百万トンと、干ばつであった前年度 3.9 百万トンから回復した。また、ウクライナからの小麦輸出は、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する臨時回廊による海上輸送が安定しており、2024/25 年度は遠距離の輸送が必要な東南アジア向けなどが増加したものの、スペインが 2024/25 年度（2024 年 7 月～10 月）に輸入した小麦のうちウクライナのシェアは 69.3%と、引き続き多くの小麦がウクライナから輸入されており、価格面からウクライナ産小麦の需要が高いものとみられる。

3 小麦の輸出動向

(1) 2023/24 年度の輸出動向

EC によれば、2023/24 年度の小麦の輸出量は 36.4 百万トンと、増産等を受け、前年度（33.6 百万トン）と比べ 8.4%増（図 5）。

輸出国別には、フランスが 1,052.6 万トンと 28.9%を占め、次いでルーマニアが 671.6 万トンで 18.5%、ポーランドが 470.2 万トンで 12.9%と続いている（表 3）。

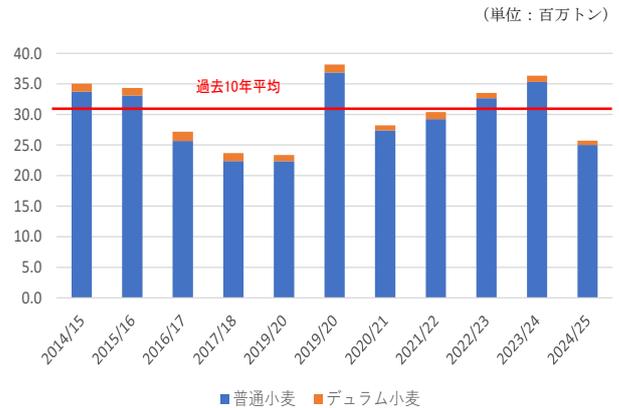
輸出先国別には、モロッコが 489.1 万トンと 13.4%を占め、次いでアルジェリアが 393.7 万トンで 10.8%、ナイジェリアが 348.9 万トンで 9.6%と続いている（表 4）。

(2) 2024/25 年度の輸出動向

EC によれば、2024/25 年度の小麦の輸出量は 25.7 百万トンと、生産量の減少等を受け前年度（36.4 百万トン）と比べ 29.3%減となる見込み（図 5）。

2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～10 月の輸出量は 995.5 万トンと、前年度同期（1,231.6 万トン）と比べ 19.2%減となっており、生産量の減少のほか、ロシアやウクライナなど他の輸出国との競合の影響もあると思われる。現地情報会社によれば、ロシアは、前年度の 2023/24 年度において史上最高となる 5,416 万トンの小麦を輸出した中で、2024/25 年度前半（2024 年 7 月～12 月）では 2,854 万トンと前年度同期（2,716 万トン）を 5.1%上回った。これは 2024/25 年度のロシアの小麦の不作を受け、年度後半の小麦の輸出枠が少なくなると予想されたことやルーブル安の傾向から輸出関税率が上昇

図 5 EUの小麦輸出量の推移



出典：EC「EU trade for cereals」及び「EU Cereals Balance Sheets」(2024.12.19) をもとに農林水産省で作成

表 3 EUの小麦の輸出国別数量

2020/21年度		2021/22年度		2022/23年度		2023/24年度		2024/25年度 (2024年7月～10月)	
国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
フランス	777.1	フランス	902.7	フランス	1,040.3	フランス	1,052.6	ルーマニア	248.0
ドイツ	450.5	ルーマニア	673.8	ルーマニア	516.6	ルーマニア	671.6	ブルガリア	183.3
ポーランド	322.4	ドイツ	416.0	ドイツ	440.4	ポーランド	470.2	フランス	113.4
ウクライナ	316.1	ブルガリア	337.1	ポーランド	385.8	ブルガリア	401.8	ウクライナ	111.3
ルーマニア	315.9	ウクライナ	168.2	ブルガリア	301.6	ドイツ	389.2	ラトビア	100.6
その他	640.5	その他	543.0	その他	670.2	その他	654.2	その他	238.8
合計	2,822.5	合計	3,040.9	合計	3,355.0	合計	3,639.6	合計	995.5

出典：EC「EU trade for cereals」(2024.12.19) をもとに農林水産省で作成

表 4 EUの小麦の輸出先国別数量

2020/21年度		2021/22年度		2022/23年度		2023/24年度		2024/25年度 (2024年7月～10月)	
国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
アルジェリア	594.1	アルジェリア	535.7	モロッコ	468.8	モロッコ	489.1	ナイジェリア	123.2
ナイジェリア	229.2	エジプト	280.8	アルジェリア	428.6	アルジェリア	393.7	アルジェリア	108.7
モロッコ	227.8	ナイジェリア	228.2	ナイジェリア	294.9	ナイジェリア	348.9	エジプト	99.3
サウジアラビア	188.4	中国	221.7	サウジアラビア	196.3	中国	237.7	モロッコ	68.2
中国	177.5	モロッコ	215.8	エジプト	181.9	エジプト	178.5	英国	63.1
その他	1,405.5	その他	1,558.7	その他	1,784.4	その他	1,991.8	その他	533.0
合計	2,822.5	合計	3,040.9	合計	3,355.0	合計	3,639.6	合計	995.5

出典：EC「EU trade for cereals」(2024.12.19) をもとに農林水産省で作成

すると予想されたことなどから、年度前半の輸出量が増加したものと思われる。

2024/25 年度前半のロシアの小麦輸出先国上位には EU の主要な輸出先国であるエジプト、アルジェリア、ナイジェリア及びモロッコが含まれており、いずれの国もロシアの輸出量が前年度同期と比べ増加している。これは、EU に比べ価格競争力が高いことが要因とみられるが、生産者や輸出業者が十分な利益を確保できる価格では輸出されていないとの報道もある。

また、ウクライナの輸出については、2024/25 年度前半（2024 年 7 月～12 月）では 987 万トンと前年度同期（763 万トン）を 29.4% 上回った。これは 2023 年 7 月にロシアが黒海穀物イニシアティブからの離脱を表明し輸出が一時停止した影響もあるものの、2024/25 年度の収穫開始が乾燥の影響により平年に比べ早かったことや 2023 年 8 月以降運用が開始されルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する臨時回廊による輸出が安定的に推移したことなどから、年度前半の輸出量が増加したものと思われる。2024/25 年度前半のウクライナの小麦輸出先国上位には EU の主要な輸出先国であるエジプト及びアルジェリアのほか、近年 EU からの輸入が増加しているインドネシアが含まれており、いずれの国もウクライナの輸出量が前年度同期と比べ増加している（表 5）。

2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～10 月の EU 輸出量を輸出国別にみると、ルーマニアが 248.0 万トンと 24.9% を占め、次いでブルガリア 183.3 万トンで 18.4%、フランス 113.4 万トンで 11.4% と続いている（表 3）。フランスは、昨年度まで EU において輸出量第 1 位であったが、2024/25 年度の生産量が前年度に比べ 26.5% 減となること等により輸出シェアを大きく減らしている。同期間の輸出先国別には、ナイジェリアが 123.2 万トンと 12.4% を占め、次いでアルジェリア 108.7 万トンで 10.9%、エジプト 99.3 万トンで 10.0% と続いております、引き続き、北アフリカや西アフリカへの輸出が主となっているが、EU における生産量の減少とロシアやウクライナなど他の輸出国との競合により、今後も輸出先国や輸出先のシェアが変動するとみられる（表 4）。

4 今後の見通し

2024/25 年度の小麦の生産量は 119.1 百万トンと前年度と比べ 10.2% 減となり 2012/13 年度以来の低水準となると見込まれている。

そのような中で 2024/25 年度の小麦の輸入量は、ウクライナの供給量が減少し同国からの輸入が減少すること等から 10.0 百万トンと前年度と比べ 17.2% 減となる見込み。ウクライナからの輸入は減少するものの、ウクライナ産小麦の価格競争力の高さから、引き続き、同国

表 5 ロシア及びウクライナの小麦の輸出先国別数量

単位:万トン

ロシア				ウクライナ			
2023/24年度 (2023年7月～12月)		2024/25年度 (2024年7月～12月)		2023/24年度 (2023年7月～12月)		2024/25年度 (2024年7月～12月)	
国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
トルコ	394	エジプト	528	スペイン	259	スペイン	236
エジプト	310	バングラデシュ	220	ルーマニア	99	インドネシア	155
バングラデシュ	209	トルコ	192	エジプト	61	ベトナム	82
アルジェリア	151	アルジェリア	166	インドネシア	55	エジプト	80
サウジアラビア	88	ケニア	132	イタリア	37	アルジェリア	75
ケニア	81	ナイジェリア	115	トルコ	37	タイ	64
イスラエル	75	サウジアラビア	100	ベトナム	29	バングラデシュ	47
リビア	65	イスラエル	94	パキスタン	27	チュニジア	45
ナイジェリア	34	モロッコ	90	レバノン	22	イタリア	40
モロッコ	29	リビア	90	ギリシャ	21	イエメン	30
その他	1,280	その他	1,129	その他	116	その他	135
合計	2,716	合計	2,854	合計	763	合計	987

出典：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

図 6 EU の小麦の主な輸出先国



からスペインの飼料用向け需要等での相当量の輸入が見込まれることから、EUの輸入量のうちウクライナからの輸入が大きなシェアを占めると見込まれる。一方で、ウクライナは臨時回廊による船舶での輸出が安定してきており、ルーマニア等のEU近隣諸国へのウクライナ産小麦の輸入は減少が見込まれる。

2024/25年度の小麦の輸出については、EUにおける生産量の減少を受けて25.7百万トンと前年度と比べ29.3%減となる見込み。世界全体でみればEUの輸出減については、他の主要輸出国からの輸出によりカバーされるとみられる。

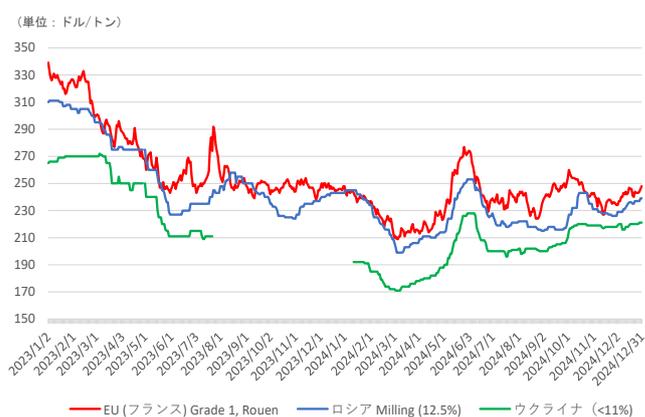
EUの主要な小麦であるフランス産小麦とロシア及びウクライナ産小麦のFOB価格を比較すると、価格差が縮小してきているものの、ロシア及びウクライナ産小麦にまだ価格競争力がある。また、EUの主要な輸出先である北アフリカ、西アフリカ及び中東への輸出については、ロシア及びウクライナも地理的な優位性があることから、同地域で厳しい競争となっているとみられる。

しかしながら、ロシアでは2024/25年度後半（2025年2月15日～6月30日）の小麦及びメスリンの輸出枠を10.6百万トン（前年度29百万トン）とすることを発表している。USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.1.10）によれば、ロシアの2024/25年度後半の穀物輸出枠は、過去5年間で最小であり、当該輸出枠により2月以降のロシアの小麦輸出は減速すると見込まれ、ロシア産小麦の主要輸入国であるエジプト、トルコ、バングラデシュ、アルジェリア及びサウジアラビアは、小麦の供給をアルゼンチン、豪州及びEUなど他の小麦輸出国に頼らざるを得ないとしている。また、ウクライナも2024/25年度の小麦の輸出上限を16.2百万トン（前年度輸出量18.6百万トン（USDA））に設定しているが、2024/25年度前半（2024年7月～12月）で9.9百万トンと、すでに輸出上限に対し60.9%を輸出している。

このことから、2024/25年度後半についてはロシア及びウクライナからの小麦の輸出が鈍化するとみられ、供給可能量は限られているものの、今後EUの輸出が上向き可能性もある。

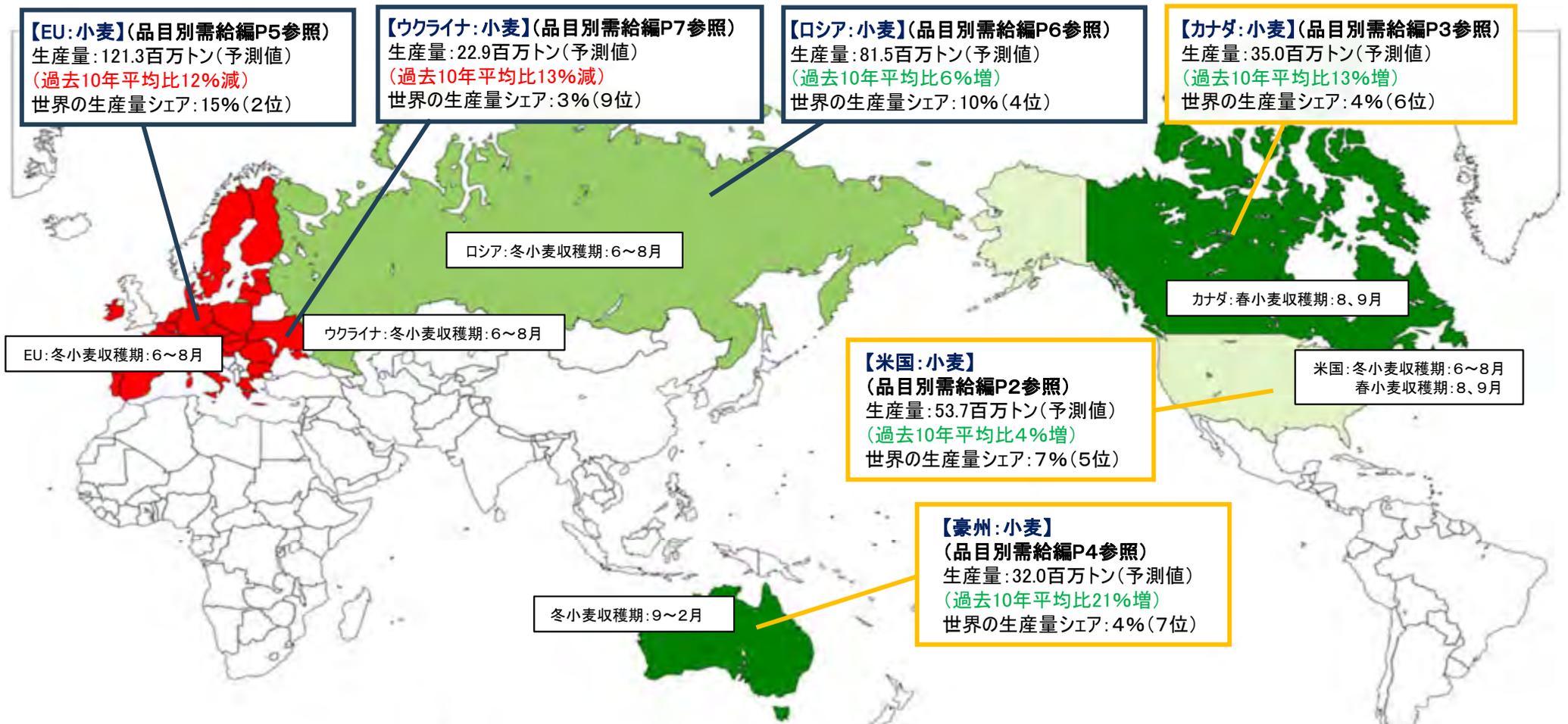
EUにおける翌年度2025/26年度の冬小麦の作付けはすでに終了しており、2024/25年度のような作付け時期の過剰な降雨はなく、現在のところ生育に大きな問題はない。一方でロシアの2025/26年度の冬小麦は、作付け時の乾燥により生育が遅れた状態で越冬を迎えており、枯死等による生産量の減少が懸念されている。我が国の小麦の主な輸入先は米国、カナダ、豪州であり、ロシアからは近年輸入を行っておらず、EUからの輸入も僅かではあるものの、ロシア及びEUは、近年、世界全体の輸出におけるシェアがそれぞれ第1位、2位となっており、両国の生産動向等は世界的な小麦需給や相場に影響を与えることから、引き続き注視していきたい。

図7 小麦のFOB価格の推移



出典：IGCのデータをもとに農林水産省で作成

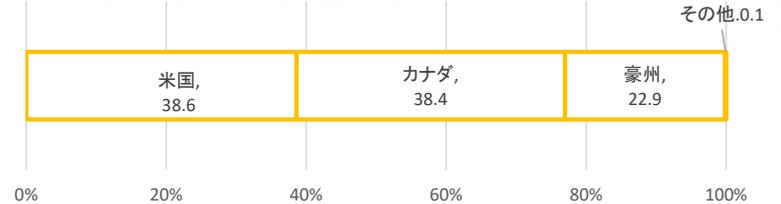
資料1-1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2024/25年度(1月版)



2024/25年度の世界の小麦輸出货量(212.0百万トン) (単位:%)



2023年の日本の小麦輸入量(5.0百万トン) (単位:%)



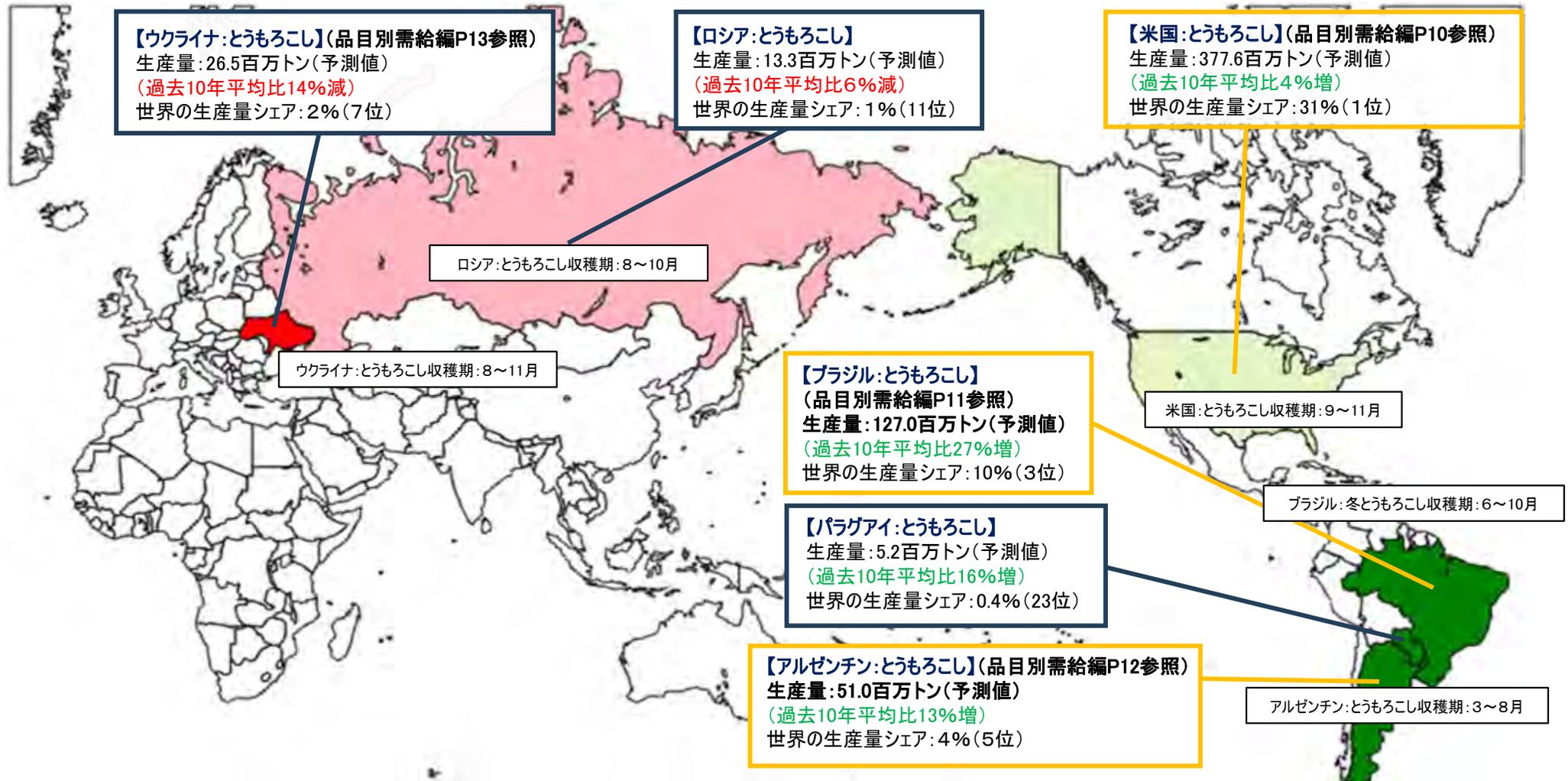
生産量増減



○ 2023年度の日本の小麦輸入量は510万トンであり、日本の小麦国内消費仕向量(631万トン、うち食用は494万トン)の80.9%を占める。

○ 輸入小麦の1人1日当たり供給熱量は238kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の10.8%を占める。

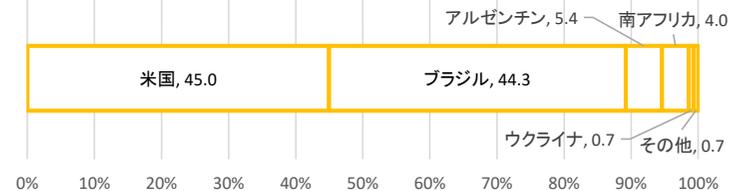
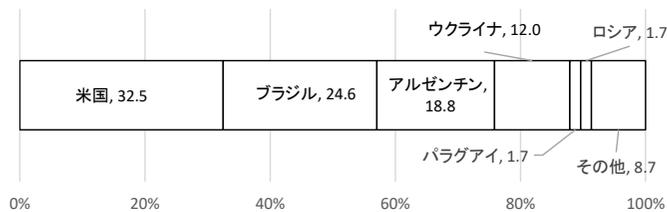
資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2024/25年度(1月版)



2024/25年度の世界のとうもろこし輸出量(191.4百万トン) (単位:%)

2023年の日本のとうもろこし輸入量(14.9百万トン) (単位:%)

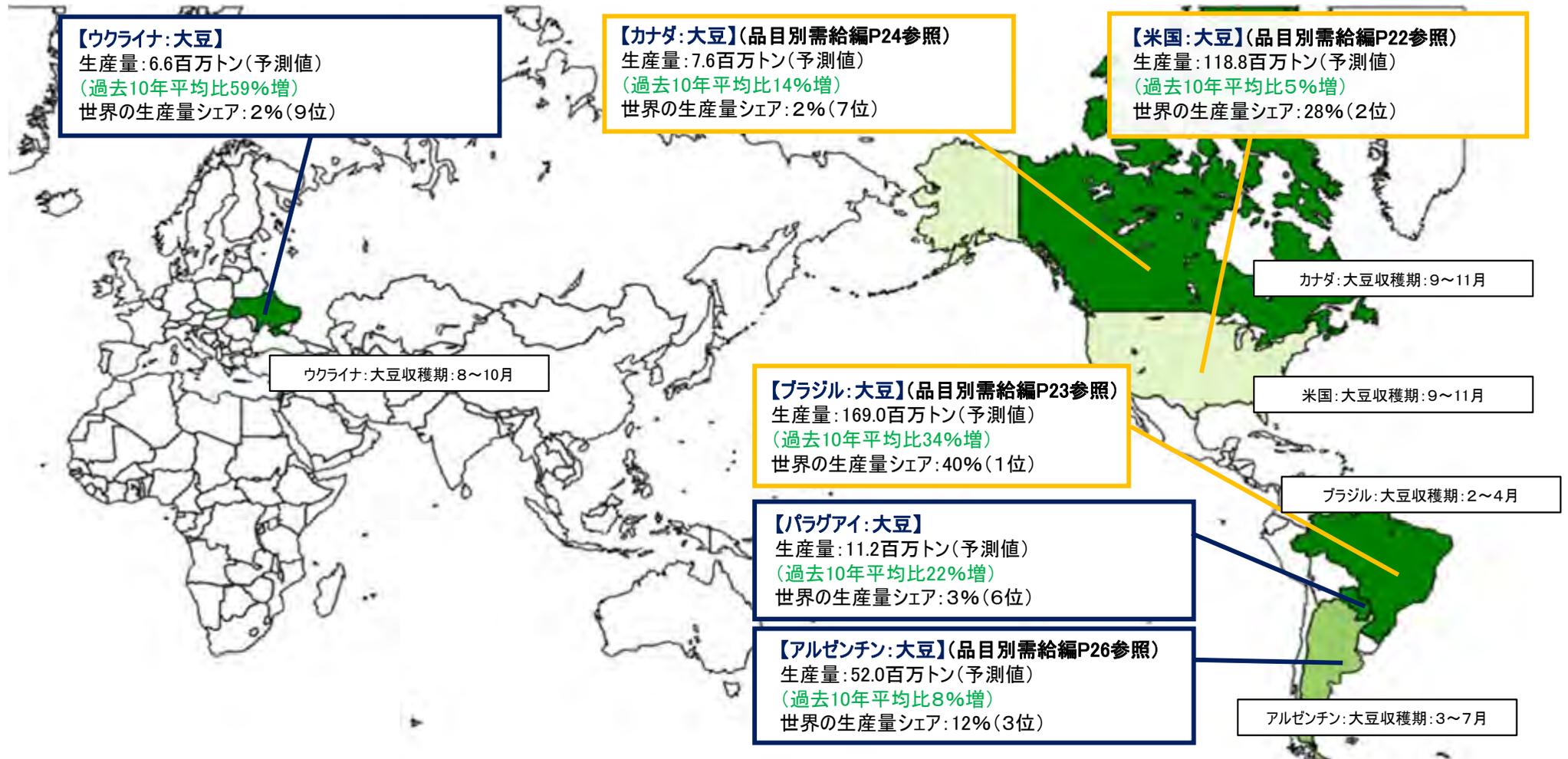
生産量増減



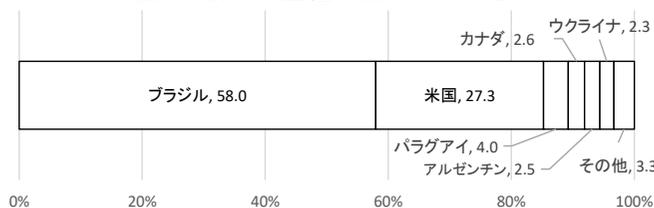
○ 2023年度の日本のとうもろこし輸入量は1,499万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,486万トン、うち飼料用は1,159万トン)のほぼ全量を占める。

出典:USDA「PS&D」(2025.1)、財務省「貿易統計」(2023年の実績値)、農林水産省「令和5年度食料需給表」、AMIS「Supply and demand balances manual」をもとに農林水産省で作成。

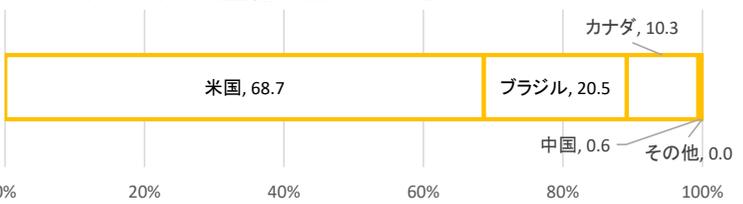
資料1-3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2024/25年度(1月版)



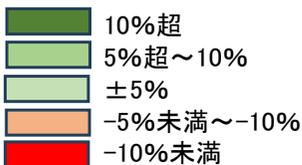
2024/25年度の世界の大豆輸出货量(182.0百万トン) (単位:%)



2023年の日本の大豆輸入量(3.16百万トン) (単位:%)



生産量増減



○ 2023年度の日本の大豆輸入量は307万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(356万トン、うち大豆油などの加工用は255万トン、食用は87万トン)の86.2%を占める。

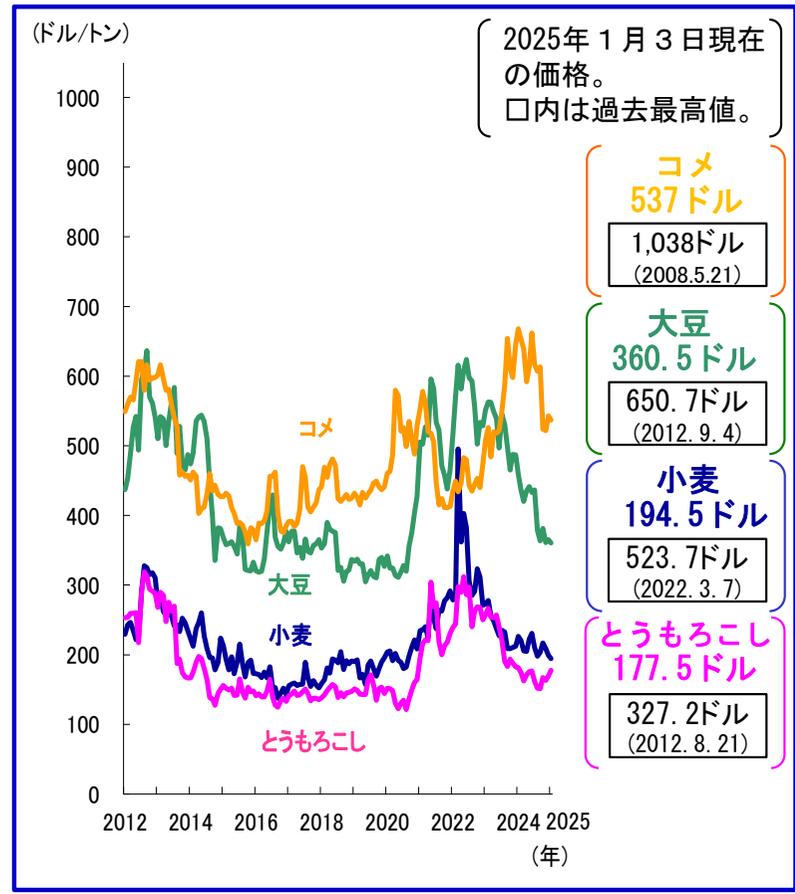
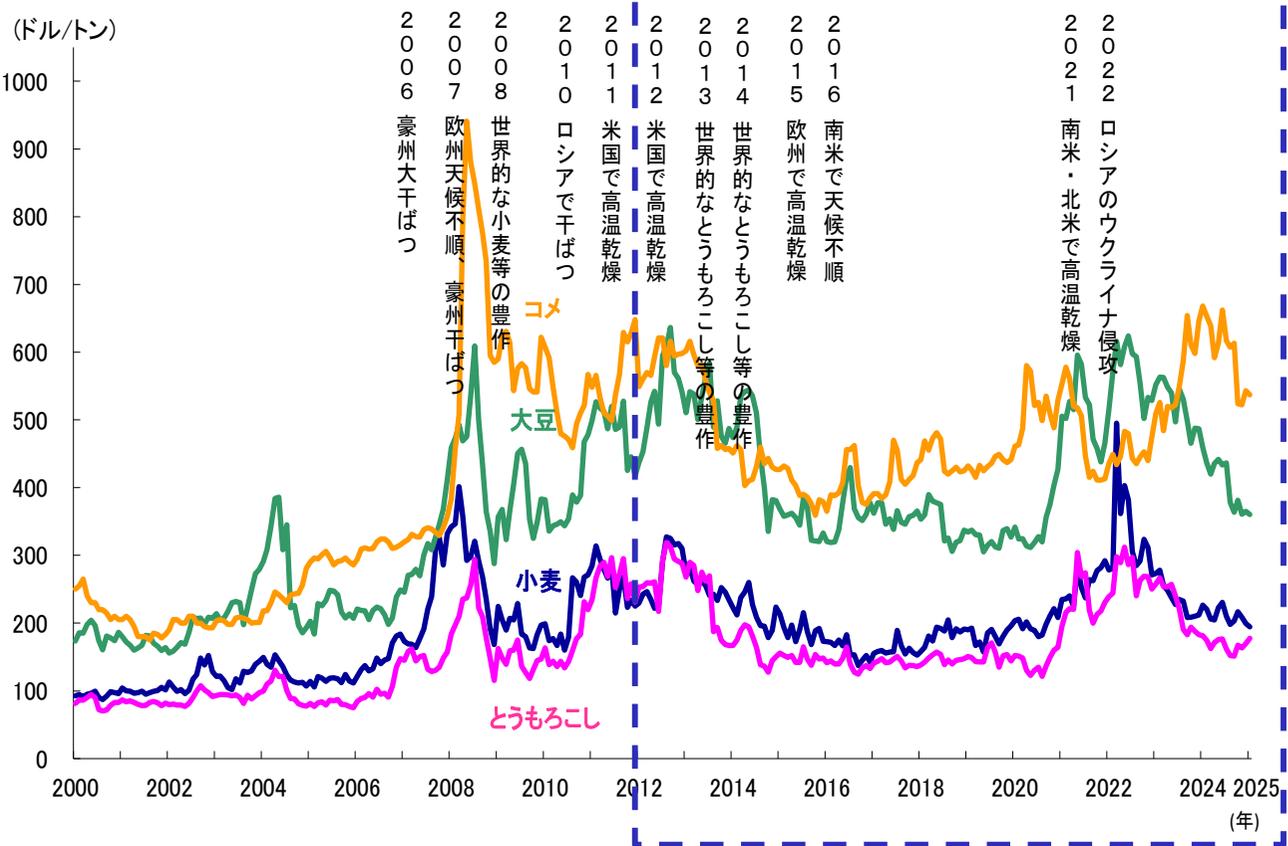
○ 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は55kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の2.5%を占める。

出典:USDA「PS&D」(2025.1)、財務省「貿易統計」(2023年の実績値)、農林水産省「令和5年度食料需給表」、AMIS「Supply and demand balances manual」をもとに農林水産省で作成。

資料 1-4 穀物等の国際価格の動向 (ドル/トン)

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。一方で、とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下。コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、インドの一部輸出規制解除等を受け低下。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要に加え、ウクライナ情勢により、2008年以前を上回る水準で推移。

□ 穀物等の国際価格の動向

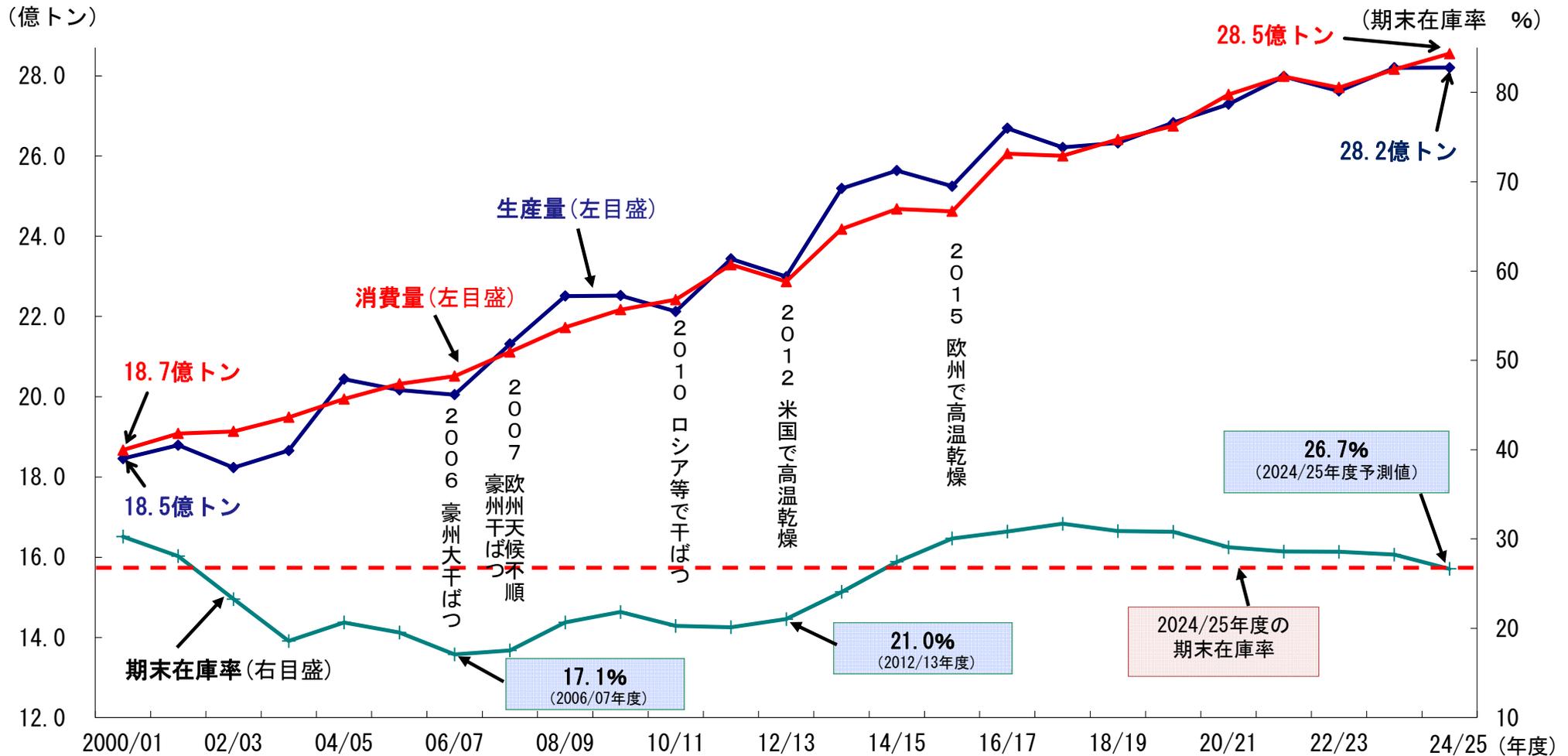


注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セツルメント)である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。
 なお、コメは2024年12月18日の価格。
 注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.7%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

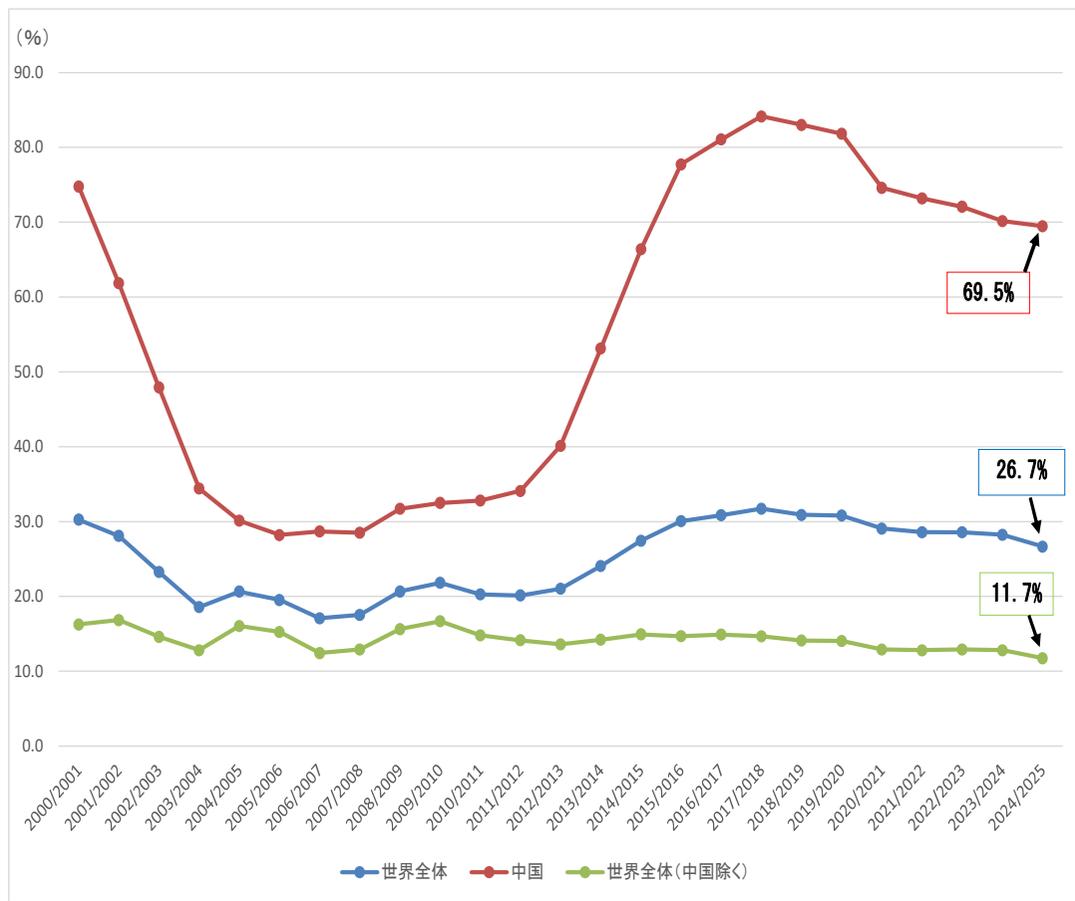
□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



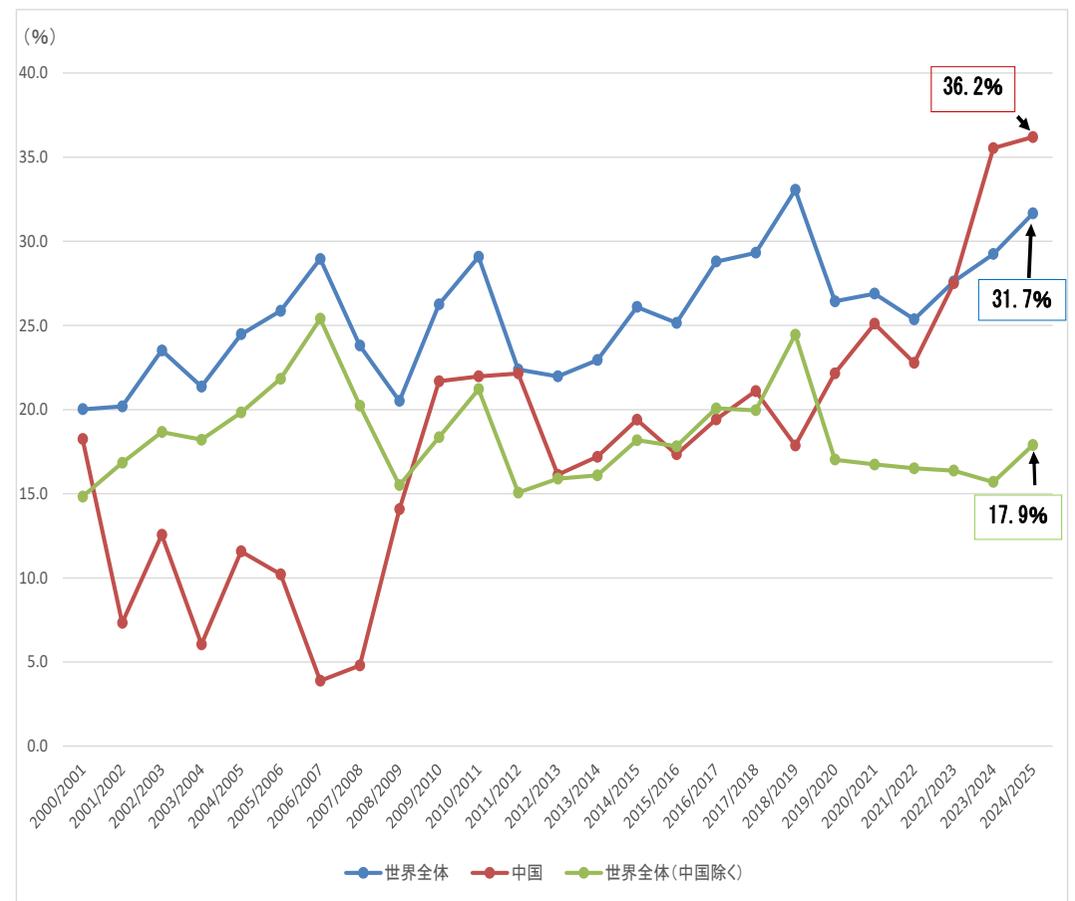
資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(January 2025)、「PS&D」
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(January 10, 2025)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

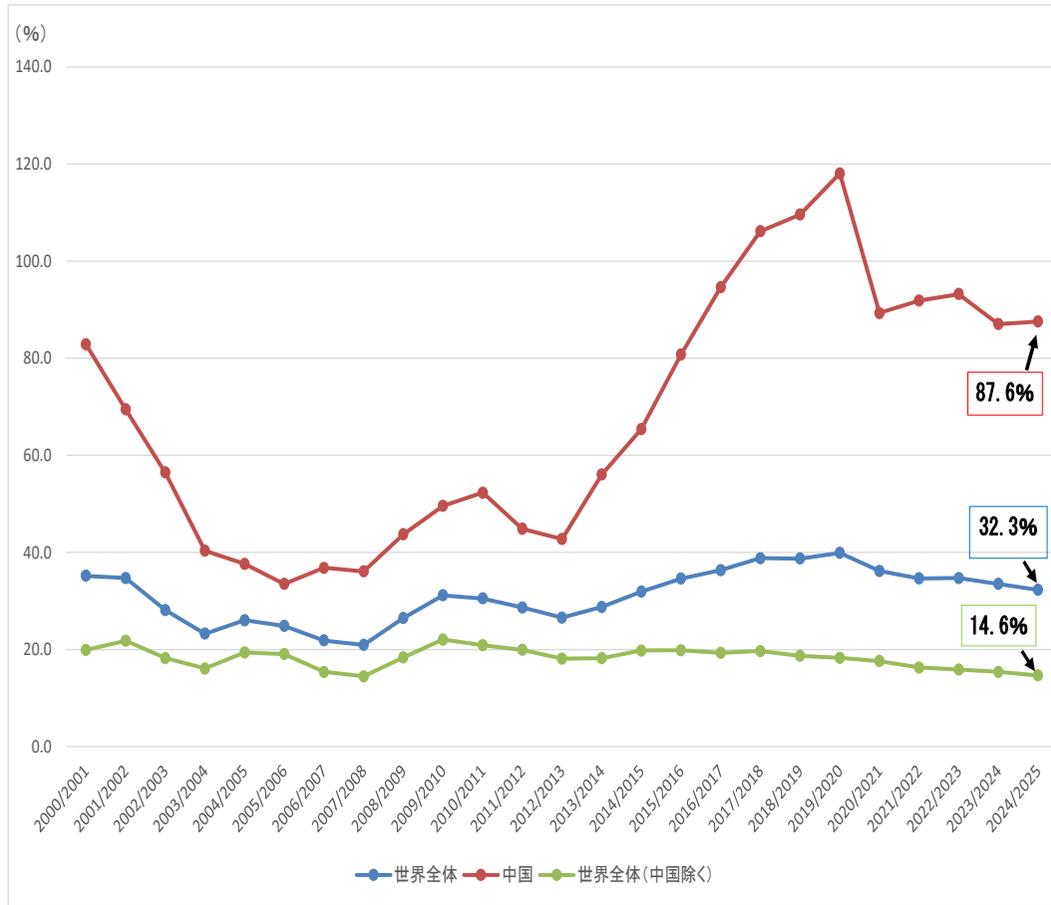
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

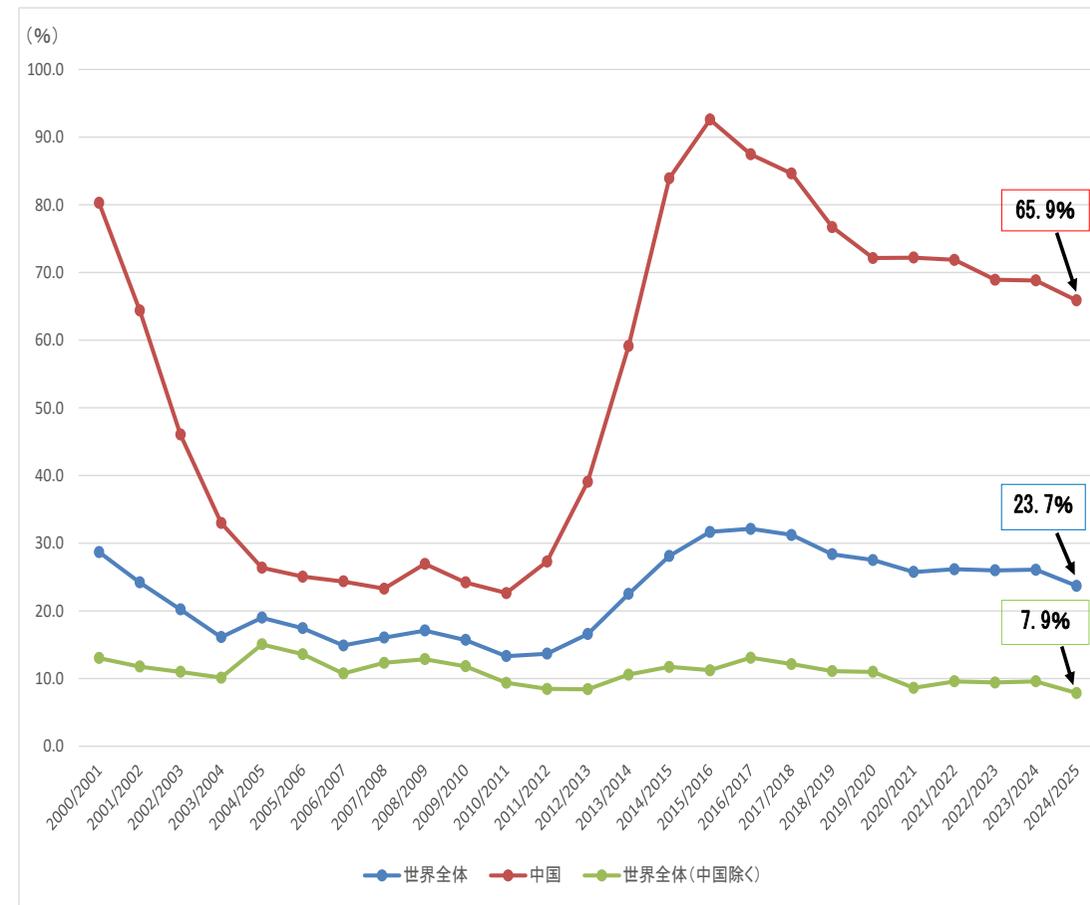
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(January 10, 2025)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

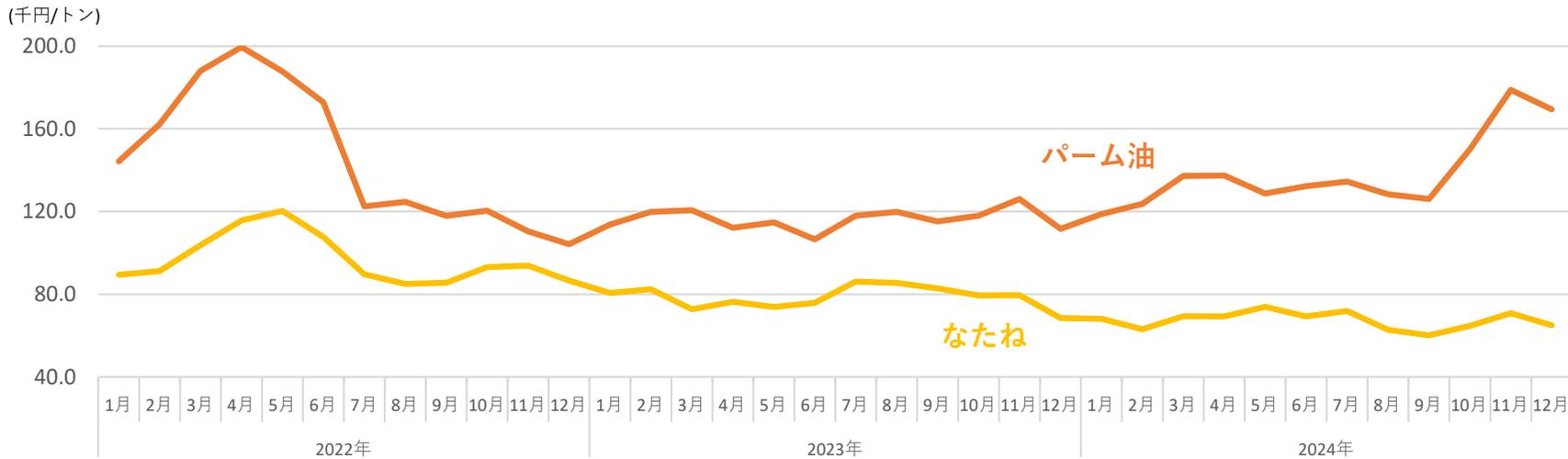
2)世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100

3)中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

4)中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料4-1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- パーム油の市場価格については、2022年にインドネシアの輸出禁止措置により上昇したものの解除後（2022年5月）は下落し、安定していたが、インドネシアのバイオ燃料政策等の影響で2024年10月以降上昇している。
- 菜種の市場価格については、2021年に主産地のカナダの不作により上昇したものの、2022年以降は収量の回復等により安定している。
- コーヒーについて、2021年以降、世界最大の生産国であるブラジルにおける天候不順による収穫量減少や世界的な物流の混乱等により、市場価格が上昇した。その後、消費地のインフレによる景況感の悪化やブラジルにおける収穫量の回復等により、市場価格は一時下降したが、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、2024年以降は再び市場価格が高騰している。

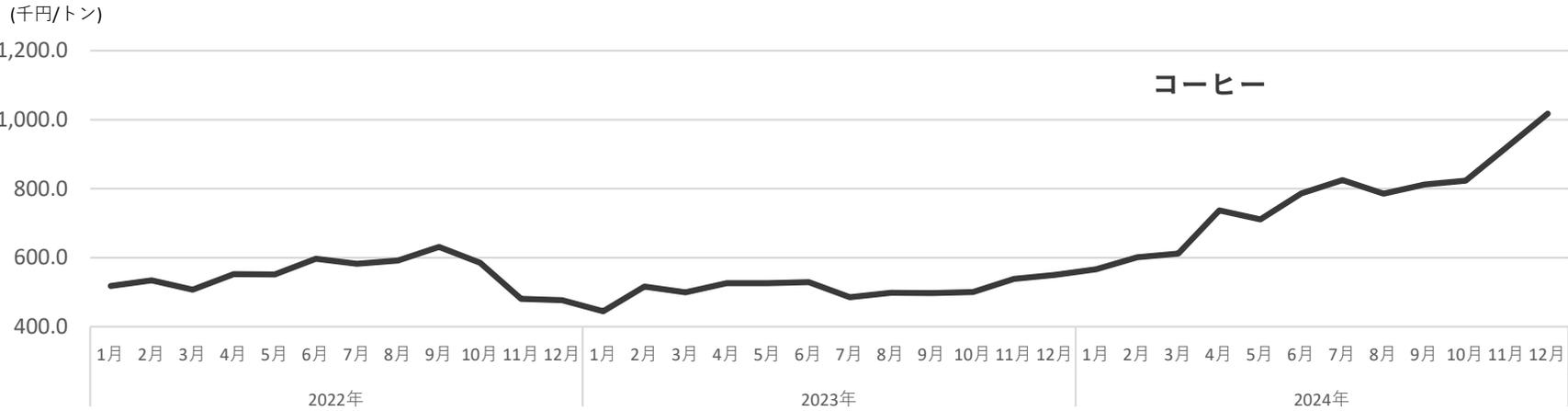


2025年1月22日現在
□内は2022年1月以降の最高値。

パーム油
178.8千円/トン
199.5千円/トン
(2022.4)

菜種
70.8千円/トン
120.3千円/トン
(2022.5)

コーヒー
1017.3千円/トン
1017.3千円/トン
(2025.1)



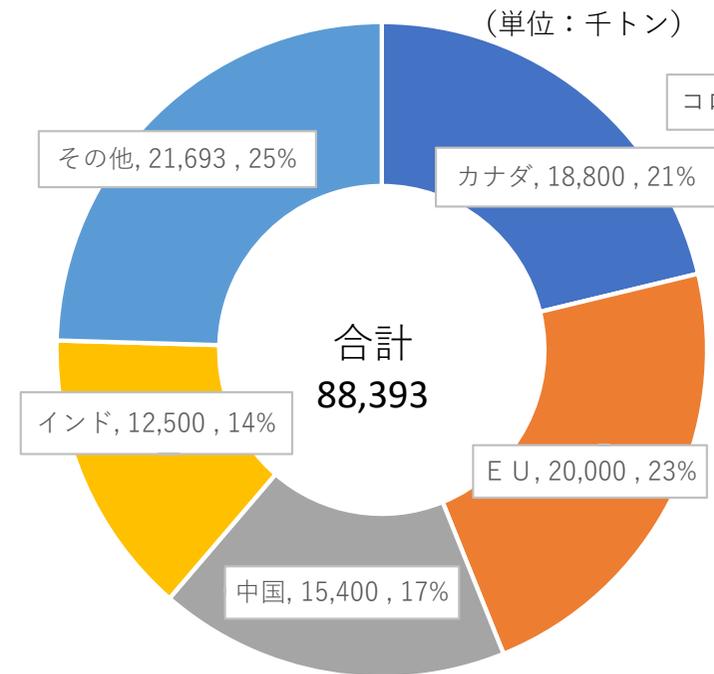
※ 菜種の国際価格についてはカナダウィネベグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料4-2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

○主要生産国の生産状況

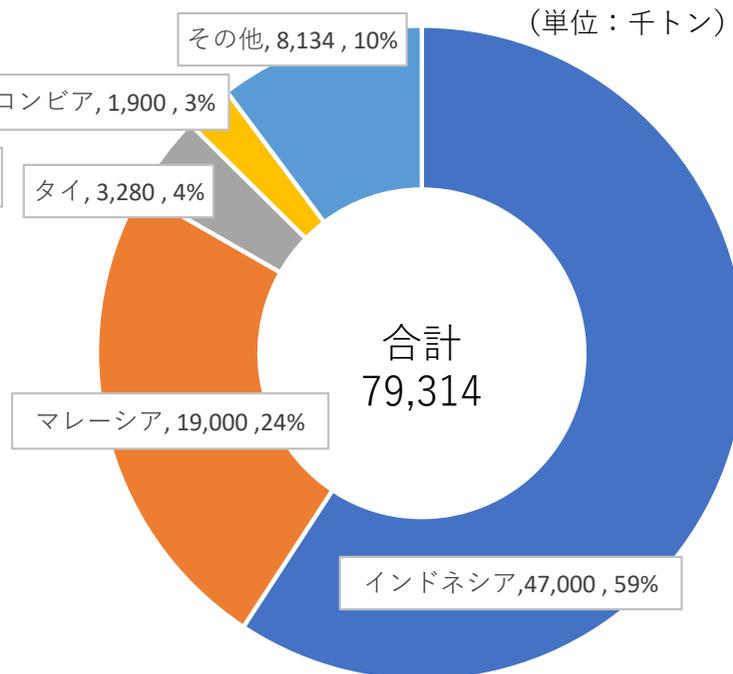
なたね生産量（2023/24）

（単位：千トン）



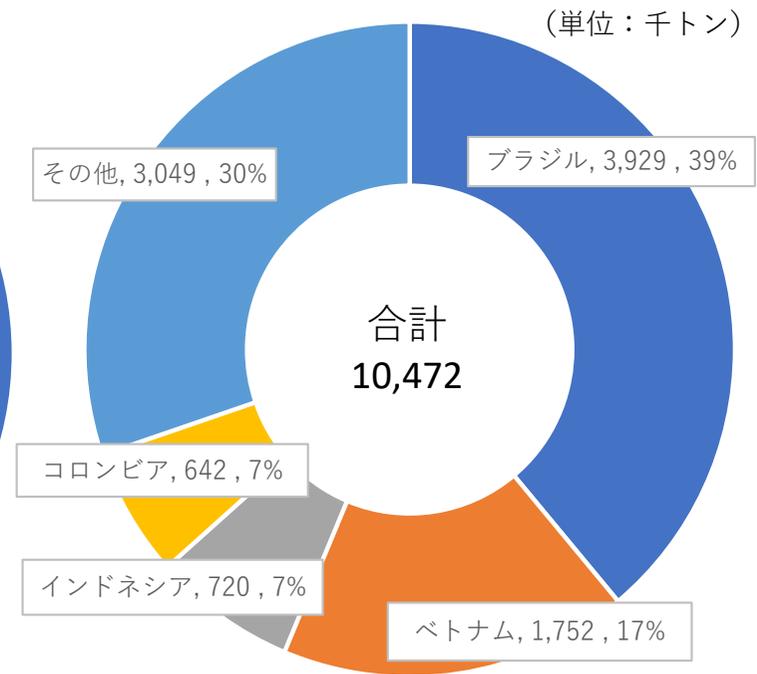
パーム油生産量（2023/24）

（単位：千トン）



コーヒー生産量（2022/23）

（単位：千トン）



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年6月時点

※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年6月時点

※国際コーヒー機関（ICO）統計資料
2024年6月時点

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2023年））

なたね	輸入量	割合
カナダ	1,039	51.4%
オーストラリア	983	48.6%
その他	0	0.0%
合計	2,022	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	574	85.6%
インドネシア	96	14.4%
その他	0	0.1%
合計	671	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	124	35.0%
ベトナム	99	27.9%
コロンビア	34	9.6%
その他	98	27.6%
合計	356	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

資料4-3 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね

単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	89.4	91.2	103.7	115.7	120.3	107.7	89.6	85.0	85.5	93.1	93.8	86.6	80.6	82.4	72.8	76.4	73.8	75.9	86.2	85.5	82.8	79.4	79.6	68.6	68.2	63.1	69.4	69.3	73.9	69.4	71.9	62.8	60.2	64.8	70.8	65.1
前月比	100.6	102.0	113.8	111.5	104.0	89.5	83.3	94.8	100.6	108.9	100.8	92.3	93.1	102.2	88.3	105.0	96.7	102.7	113.6	99.2	96.9	95.9	100.2	86.1	99.5	92.5	109.9	99.9	106.6	93.8	103.7	87.3	126.1	107.7	109.3	91.9
前年同月比	164.3	148.3	148.1	162.0	143.9	139.8	115.1	109.1	112.3	110.1	101.5	97.5	90.2	90.4	70.1	66.0	61.4	70.5	96.1	100.6	96.9	85.3	84.8	79.2	84.6	76.6	95.4	90.8	100.1	91.4	83.5	73.5	812.1	81.5	89.0	94.9

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油

単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	144.2	162.2	188.0	199.5	187.8	172.8	122.4	124.7	117.9	120.4	110.4	104.2	113.7	119.9	120.6	112.1	114.7	106.5	117.9	119.8	115.1	118.0	126.1	111.6	118.7	123.7	137.2	137.4	128.7	132.2	134.4	128.3	126.1	150.1	178.8	169.4
前月比	112.5	112.4	115.9	106.1	94.1	92.0	70.9	101.9	94.5	102.1	91.7	94.4	109.1	105.4	100.7	93.0	102.3	92.9	110.7	101.6	96.1	102.4	106.9	88.5	106.4	104.2	110.9	100.2	93.7	102.7	101.7	95.4	98.2	119.1	119.1	94.7
前年同月比	155.0	157.5	166.6	184.4	151.2	177.3	110.5	103.7	98.1	85.9	77.0	81.3	78.8	73.9	64.2	56.2	61.1	61.7	96.3	96.1	97.7	98.0	114.2	107.1	104.4	103.2	113.7	122.6	112.2	124.1	114.0	107.1	109.5	127.3	141.8	151.8

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料 4 - 4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③ コーヒー

単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コーヒー	517.9	534.1	507.5	552.1	551.2	596.8	582.3	591.6	631.1	585.4	480.6	477.0	444.4	516.3	499.6	526.2	526.1	529.1	485.5	498.1	497.4	500.3	538.5	550.2	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8	786.3	825.0	785.5	812.1	823.4	920.3	1017.3
前月比	100.6	103.1	95.0	108.8	99.8	108.3	97.6	101.6	106.7	92.8	82.1	99.2	93.2	116.2	96.8	105.3	100.0	100.6	91.8	102.6	99.9	100.6	107.6	102.2	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5	110.6	104.9	95.2	103.4	101.4	111.8	110.5
前年同月比	194.1	190.6	172.9	188.0	169.5	172.9	158.3	152.4	151.4	128.4	98.8	92.7	85.8	96.7	98.5	95.3	95.4	88.7	83.4	84.2	78.8	85.5	112.0	115.4	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1	148.6	169.9	157.7	163.3	164.6	170.9	184.9

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出

注2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和6年12月の国内の加工食品の消費者物価指数は114.0～153.1（前年同月比で-2.4%～4.4%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省）
（令和6年7月～令和6年12月）

【参考】
食品価格動向調査（農林水産省）
（令和6年7月～令和7年1月）

品目	R2	R3	R4	R5	R6							上昇率 (前年 同月比)
	平均	平均	平均	平均	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
食パン	100.0	99.2	110.3	118.7	122.4	122.6	122.3	121.6	121.5	121.9	-0.6%	
即席めん	100.0	100.1	107.6	119.7	122.9	124.3	120.2	118.4	122.0	120.1	-1.7%	
豆腐	100.0	101.3	105.3	114.6	118.1	117.9	118.8	119.3	119.7	119.1	1.6%	
食用油 (キャノーラ油)	100.0	106.9	144.4	160.2	146.8	148.1	144.3	146.9	149.8	149.9	-2.2%	
みそ	100.0	99.3	101.3	108.1	113.4	113.7	114.8	115.3	114.4	114.0	2.7%	
マヨネーズ	100.0	105.6	125.6	149.5	152.7	151.8	153.3	152.7	153.1	153.1	-1.0%	
チーズ	100.0	98.7	107.5	131.1	132.3	135.4	133.4	134.6	133.4	128.2	-2.4%	
バター	100.0	99.9	99.2	108.6	119.6	120.1	120.0	120.1	120.1	119.5	3.5%	
生鮮食品を 除く食料	100.0	100.2	104.1	112.6	116.3	117.1	117.8	119.2	119.9	120.1	4.4%	

品目	R2	R3	R4	R5	R6						R7		
	平均	平均	平均	平均	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	100.0	98.6	107.8	114.5	118.2	118.6	118.9	118.2	117.4	118.2	122.5	3.6%	4.2%
即席めん	100.0	99.2	105.6	117.5	121.0	120.4	119.1	115.5	118.5	117.3	115.5	-1.5%	-3.6%
豆腐	100.0	100.6	103.7	113.0	115.9	115.9	116.7	118.5	119.3	118.0	118.5	0.4%	3.4%
食用油 (キャノーラ油)	100.0	104.1	140.7	159.4	142.9	145.1	143.5	144.5	142.9	140.0	140.3	0.2%	-8.5%
みそ	100.0	99.2	100.1	105.9	110.0	109.8	110.2	110.0	110.6	108.8	109.8	0.9%	-0.4%
マヨネーズ	100.0	102.2	117.7	139.8	140.3	140.6	141.3	140.6	138.6	140.6	140.6	0.0%	-2.4%
チーズ	100.0	98.1	105.7	126.5	129.3	129.3	128.8	128.8	128.3	122.3	127.8	4.5%	1.6%
バター	100.0	99.8	99.1	108.0	119.7	119.7	118.8	119.4	119.7	119.2	120.1	0.8%	1.5%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。
注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。
注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。
資料: 総務省消費者物価指数

資料 6-1 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2025年2月号（1月24日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

◆牛肉

（米国）メキシコの生体牛輸入停止などで、25年の牛肉生産量は下方修正

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003571.html

（豪州）24年の牛肉輸出量は過去最高の見通し、さらなる海外需要創出を模索

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003572.html

（ブラジル）24年の牛肉生産量、輸出量ともに前年を大幅に上回り推移

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003573.html

◆豚肉

（米国）24年11月の豚肉卸売価格、牛肉の代替需要などから前年同月比11.6%高

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003574.html

（メキシコ）24年の豚肉生産量は前年比2.1%増、25年は同1.6%増の予測

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003575.html

（EU）豚枝肉卸売価格、2カ月連続で200ユーロを下回る

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003576.html

（中国）豚肉供給量の増加から豚肉価格は下落傾向で推移

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003577.html

資料 6-2 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

◆牛乳・乳製品

(EU) 24年10月の生乳出荷量、前年同月をわずかに上回る

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003579.html

(豪州) 11月の生乳生産量は前年同月並みも主要乳製品の輸出は好調

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003580.html

(NZ) 24/25年度の生産者支払乳価を引き上げ

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003581.html

◆飼料穀物

(世界：トウモロコシ) 消費量の微増などから期末在庫はかなりの程度減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003583.html

(世界：大豆) 大豆の生産量、消費量ともに上方修正、期末在庫は引き続き大幅増の見込み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003584.html

(米国) 総消費量の増加により期末在庫はわずかに減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003585.html

(ブラジル) 2024/25年度第1期作トウモロコシ、大豆の生育状況はおおむね良好

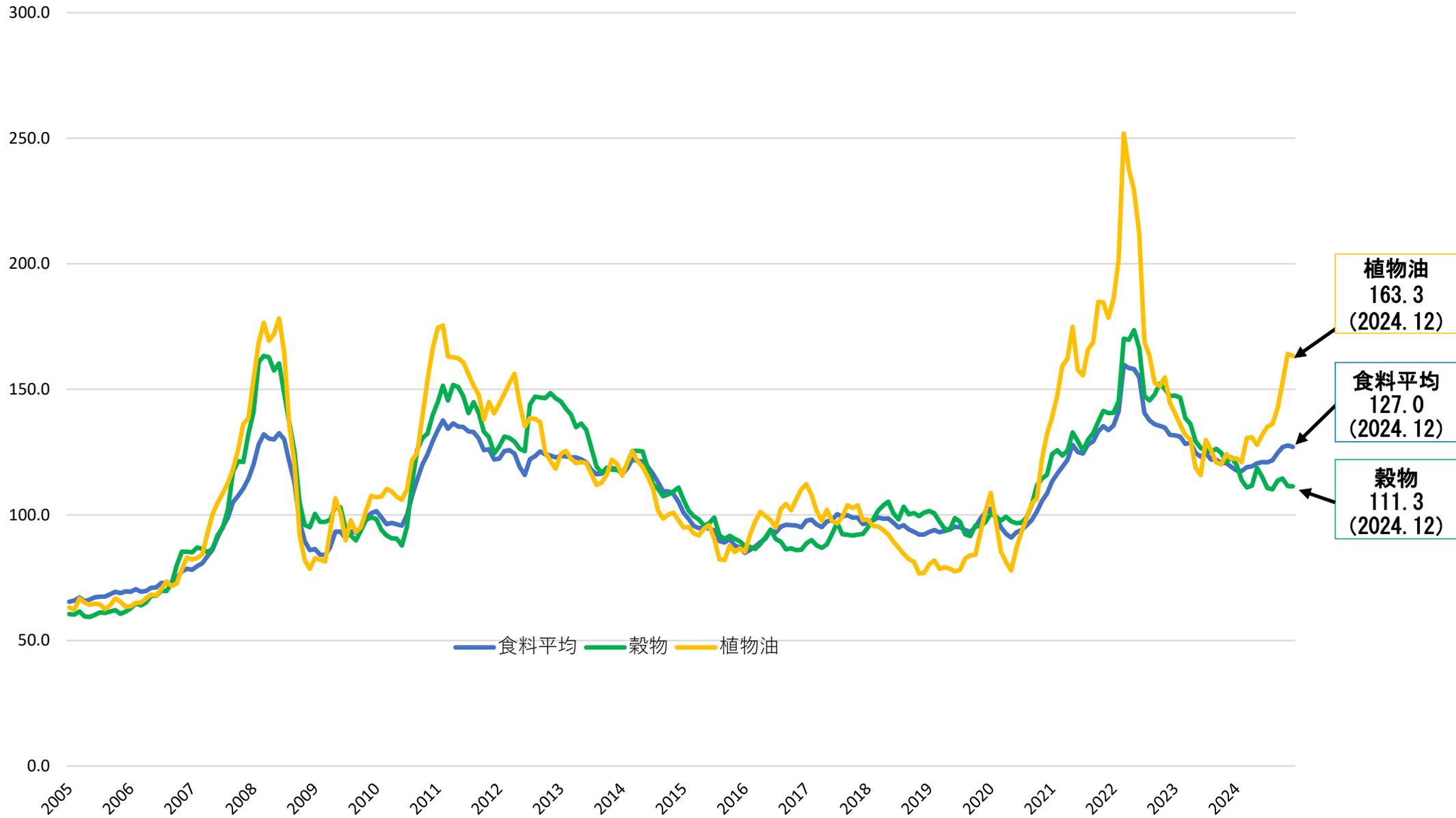
https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003586.html

(中国) トウモロコシおよび大豆の価格動向

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003587.html

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2024.12)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

タイのコメ貿易について

1 はじめに

タイは、「世界の台所」(Kitchen of the World) と呼ばれるほど、豊富な農産物・水産物を生産し、世界中に輸出しています。今回は、タイの人々の主食であるコメに焦点を当て、タイのコメ輸出の動向やタイへの日本産米輸出に向けた可能性について報告します。

2 タイのコメ輸出の動向

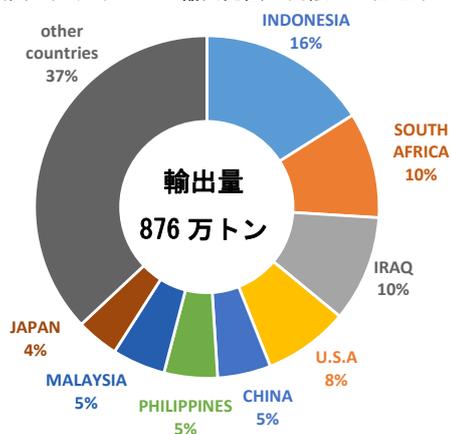
タイは世界有数のコメ生産国であり、世界のトップ3に入るコメの輸出大国です。タイ米輸出協会 (Thai Rice Exporters Association) によれば、2023 年におけるタイのコメ輸出量は合計 876 万トンであり、輸出先は、1 位インドネシア、2 位南アフリカ、3 位イラクと続き、日本は約 34 万トンで第 8 位となっています (図 1)。

2024 年 (1 月～8 月) のコメ輸出量は、インドネシア向けの輸出が約 1.5 倍、フィリピン向けの輸出が約 3 倍に急増したこと等により、前年同期比で約 22% も増加しました。背景には、インドネシアやフィリピンにおいて、エルニーニョ現象により国内のコメ生産量が減産の見通しとなるなか、コメ輸出大国の一つであるインドの輸出制限や競合関係にあるベトナムと比較した価格優位等により、タイからの輸入を増加させたためです。これにより、2024 年のタイのコメ輸出量は、前年を大きく上回る 1,000 万トン程度の水準になると予想されています。

また、2024 年 (1 月～8 月) の輸出額は、インドにおけるコメの輸出制限を発表した 2023 年 7 月以降、コメの輸出価格が上昇したことにより (図 2)、前年同期比で約 51% も増加しており、2024 年はタイのコメ輸出にとって「Golden Year」という声が聞こえてきます。

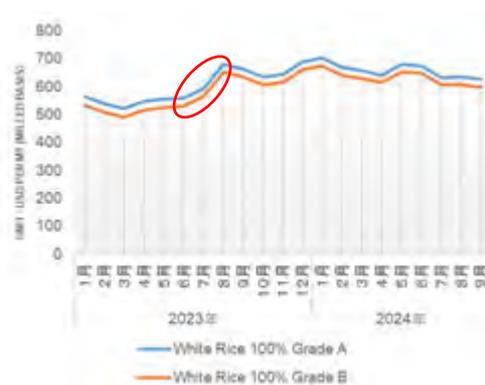
今後の見通しについて、2025 年はインドのコメの輸出制限の緩和及び撤廃、パーツ高による国際価格競争力の低下等により、タイのコメ輸出量は 750 万トン程度 (前年対比 25% 減) になると予想されていますが、タイは安定したコメ輸出国として重要な役割を果たしており、引き続き、世界のコメ需給を支えることに大きく貢献することが見込まれます。

(図 1) タイのコメ輸出先国の内訳※¹ (2023)



出典：タイ米輸出協会データより作成

(図 2) タイのコメ輸出価格 (FOB) の推移



出典：タイ米輸出協会データより作成

3 日本産米のタイへの輸出可能性

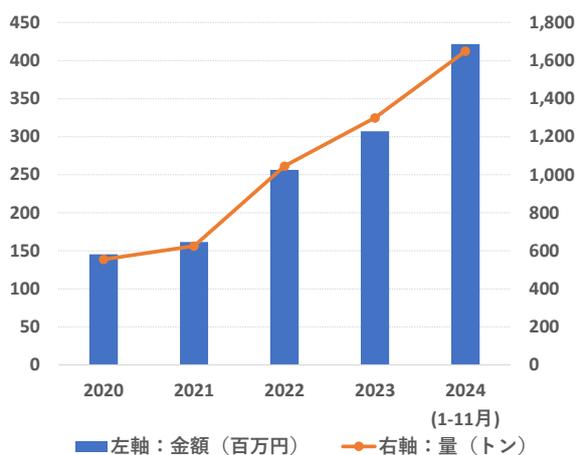
タイは世界有数のコメ輸出国ですが、近年、日本産米の輸出額は着実に増加しています。日本から輸出される精米^{※1}は、金額・量ともに、過去5年間で常に増加し続けています。2024年1月～11月までの精米の輸出額は、4.2億円となっており、2023年の輸出額を既に上回っています（図3）。

※1 タイによる植物検疫上の措置により、玄米としての輸出は、現在、行うことができない。

タイへのジャポニカ米輸出については、日本以外では、ベトナム、中国、オーストラリアにおいて実績がありますが、毎年着実に輸出できているのは、日本だけであり、2023年の輸出実績は日本のみとなっています（図4）。

日本産米の輸出が増えている背景には、タイにおける日本食レストランの増加が挙げられます。2024年度調査によるタイの日本食レストラン数は、5,916店舗となっており、前年から約3%増加しました（出典：JETRO Bangkok）。また、旅行などで日本を訪れたタイの方々が、日本産米の味を知り、本物志向の味を求め、ECサイトなどから購入する消費者も増えてきているようです。

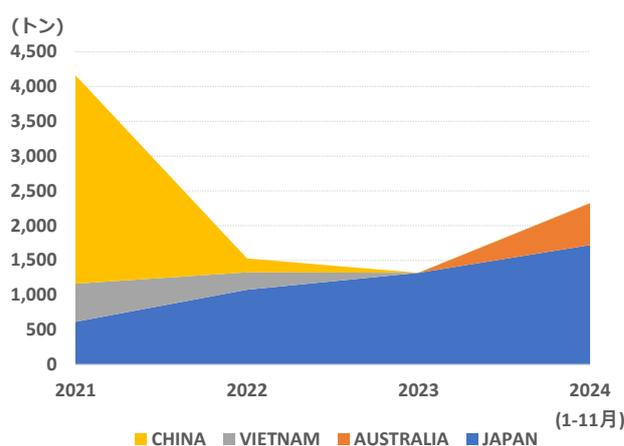
（図3）日本からタイへのコメ輸出の推移



出典：財務省「貿易統計」より作成

注：HSコードは100630000

（図4）タイによるジャポニカ米の輸入実績



出典：INFORMATION AND COMMUNICATION TECHNOLOGY CENTER WITH COOPERATION OF THE CUSTOMS DEPARTMENTより作成

注：HSコードは10063099015

タイ北部のチェンライ県などにおいても、ジャポニカ米を栽培しており、タイ産のササニシキ系やあきたこまち系の品種が流通しています。タイで販売されているタイ産ジャポニカ米の店頭販売価格は250バーツ程度/5kgとタイの一般的なコメよりは高価ですが、日本産米は、品種にもよりますが、最安値でも500バーツ以上/5kgで販売されていることが多く、価格差は2倍以上あります。

（写真）タイで販売されているタイ産のジャポニカ米



日本食レストランが取り扱うコメは、タイ産ジャポニカ米と日本産米が競合関係となります。現地でコメを取扱う事業者によれば、タイ産ジャポニカ米は、炊き上がりの過程でコメが壊れやすく、品質の面では、日本産米に優位性があるとのことでした。

今回は、タイの食事情としてコメを使った幅広い料理について紹介したいと思います。

文責：金永 忠之（在タイ日本国大使館 一等書記官）

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介します。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴などについてご紹介したいと思います。

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・ウルグアイ等で下方修正されたものの、シリア、パキスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

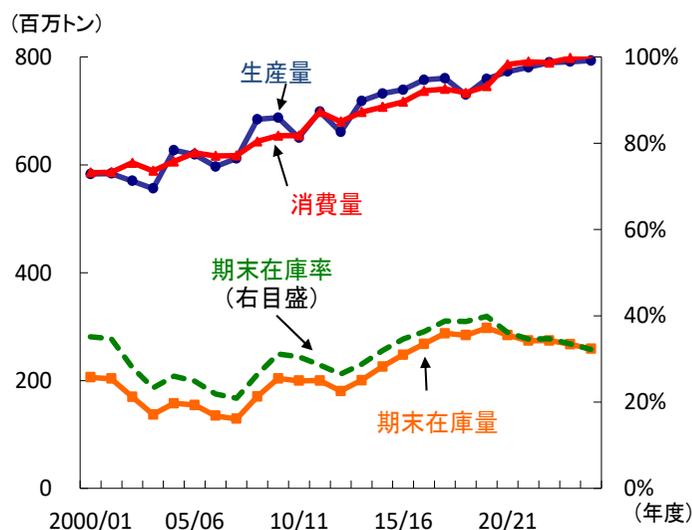
消費量 前年度比 前月比

- ・ウクライナ等で上方修正されたものの、トルコ等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 前月比

- ・ロシア、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2025. 1. 10) をもとに農林水産省にて作成

◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	789.9	791.0	793.2	0.3	0.3
消費量	789.6	797.8	801.9	▲ 0.6	0.5
うち飼料用	152.8	159.2	152.7	0.1	▲ 4.1
輸出量	221.8	221.2	212.0	▲ 1.7	▲ 4.2
輸入量	213.3	221.8	208.5	▲ 1.1	▲ 6.0
期末在庫量	274.3	267.5	258.8	0.9	▲ 3.2
期末在庫率	34.7%	33.5%	32.3%	0.1	▲ 1.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (10 January 2025)

○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(793.2百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(212.0百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(208.5百万トン)(単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2025/26 年度の冬小麦の作付面積は前年度から 2.2%増加の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 53.7 百万トンと、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.3%増、過去 5 年平均 (48.2 百万トン) と比べても 11.4%増となる見込み。品種別には、ハード・レッド・ウインター (HRW) が 21.0 百万トン (前年度比 29.3%増)、ハード・レッド・スプリング (HRS) が 13.7 百万トン (同 8.0%増)、ホワイト小麦 (WW) が 7.5 百万トン (同 17.7%増)、デュラム小麦 (Durum) が 2.2 百万トン (同 34.9%増) と、前年度と比べ増加する一方で、ソフト・レッド・ウインター (SRW) は前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等を受け 9.3 百万トン (同 23.7%減) となる見込み。

同「Wheat Outlook」(2025.1.14) によれば、2025/26 年度の冬小麦の作付面積は 1,381 万ヘクタールと、カンザス州、オクラホマ州等で減少するものの、テキサス州、モンタナ州、ワシントン州等で増加することから、前年度 (1,351 万ヘクタール) と比べ 2.2%増となる見込み。冬小麦の作付面積は、長期的にはとうもろこし及び大豆への作付けシフトから減少すると見込まれているものの、2020/21 年度に史上最低を記録後、わずかに回復した。2022 年後半に小麦の価格が上昇したことで 2023/24 年度の冬小麦の作付面積は増加したものの、2023 年の価格低下により 2024/25 年度の冬小麦の作付面積は再び減少していた。

同「Winter Wheat and Canola Seedings」(2025.1.10) によれば、2025/26 年度の冬小麦の品種別作付面積は、HRW が 971 万ヘクタールと前年度と比べ 1%増、SRW が 261 万ヘクタールと同 6%増、WW が 147 万ヘクタールと同 3%増となる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 23.1 百万トンと、増産による輸出余力の増加に加え、EU、ロシア及びウクライナの輸出余力の減少等を受け、前年度と比べ 20.2%増、過去 5 年平均 (23.0 百万トン) と比べても 0.5%増と 4 年ぶりの高水準となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～11 月の輸出量は、1,115.6 万トンと前年同期 (832.8 万トン) と比べ 34.0%増となっており、国別にはメキシコ 178.9 万トン (16.0%)、フィリピン 132.0 万トン (11.8%)、日本 125.7 万トン (11.3%) の順。

2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引上げを受け前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 21.7 百万トンと、前年度と比べ 14.6%増となる見込み。

小麦一米国 (冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

(単位: 百万トン)

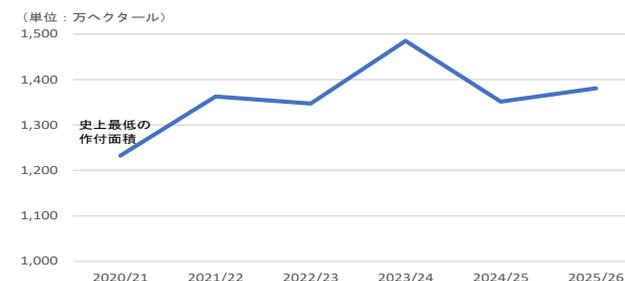
年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.1	53.7	-	9.3
消費量	30.3	30.2	31.3	0.1	3.8
うち飼料用	2.0	2.3	3.3	-	41.6
輸出量	20.7	19.2	23.1	-	20.2
輸入量	3.3	3.8	3.5	0.1	▲ 5.9
期末在庫量	15.5	19.0	21.7	0.1	14.6
期末在庫率	30.4%	38.4%	39.9%	0.1	1.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	14.36	15.01	15.57	-	3.7
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.45	-	5.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 January 2025)

図 冬小麦の作付面積の推移



資料: USDA 「Winter Wheat and Canola Seedings」(2025.1.10) をもと
に農林水産省で作成

表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン, シェア: %)

国名	2024/25年度 (2024年6月～11月)		国名	2023/24年度 (2023年6月～2024年5月)		国名	2022/23年度 (2022年6月～2023年5月)	
	輸出量	シェア		輸出量	シェア		輸出量	シェア
メキシコ	178.9	16.0	メキシコ	325.8	17.4	メキシコ	365.4	18.0
フィリピン	132.0	11.8	フィリピン	274.5	14.7	フィリピン	206.1	10.2
日本	125.7	11.3	中国	216.9	11.6	日本	204.1	10.1
韓国	106.8	9.6	日本	197.1	10.5	韓国	147.2	7.3
台湾	59.0	5.3	韓国	130.1	6.9	中国	120.6	6.0
タイ	39.3	3.5	台湾	110.5	5.9	ナイジェリア	81.9	4.0
その他	474.0	42.5	その他	618.1	33.0	その他	901.7	44.5
計	1,115.6	100.0	計	1,873.0	100.0	計	2,027.0	100.0

資料: USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省
で作成

< カナダ > 2025/26 年度の作付面積は前年度から 1.8%増加の見込み (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」(2025.1.20) によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 35.0 百万トンと、干ばつの影響により減産となった前年度 (32.9 百万トン) に比べ 6.1%増、過去 5 年平均 (31.7 百万トン) と比べても 10.4%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 29.1 百万トンと、前年度 (28.9 百万トン) と比べ 0.8%増、過去 5 年平均 (26.8 百万トン) と比べても 8.7%増となり、史上最高の生産量となった 2013/14 年度に次ぐ史上 2 番目の生産量になる見込み。デュラム小麦も 5.9 百万トンと、前年度 (4.1 百万トン) と比べ 43.6%増、過去 5 年平均 (4.9 百万トン) と比べても 19.8%増となる見込み。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2024」(2024.12.5) によれば、2024/25 年度の春小麦の生産量は 26.1 百万トンと、収穫面積が減少したものの単収が増加したことから前年度 (25.5 百万トン) と比べ 2.2%増となる見込み。

AAFC によれば、2025/26 年度の小麦の作付面積は 11.03 百万ヘクタールと前年度 (10.84 百万ヘクタール) と比べ 1.8%増加する見込み。種類別には、普通小麦が 8.58 百万ヘクタールと前年度 (8.26 百万ヘクタール) と比べ 3.8%増となる一方で、デュラム小麦が 2.45 百万ヘクタールと前年度 (2.58 百万ヘクタール) と比べ 4.8%減となる見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 26.2 百万トンと、前年度 (25.3 百万トン) と比べ 3.2%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 21.3 百万トンと、増産となるものの、低品質な小麦が増加し飼料用消費量が増加すること等から前年度 (21.8 百万トン) と比べ 2.4%減となる見込み。デュラム小麦は 4.9 百万トンと、生産量の回復による輸出余力の増加等を受け、前年度 (3.6 百万トン) と比べ 37.7%増となる見込み。カナダ穀物委員会 (CGC) によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～11 月の輸出量は、817.9 万トンと前年同期 (823.4 万トン) と比べ 0.7%減。種類別には、普通小麦が 674.3 万トンと前年同期 (724.4 万トン) と比べ 6.9%減で、国別には日本 74.9 万トン (11.1%)、インドネシア 71.8 万トン (10.7%)、ペルー 55.7 万トン (8.3%) の順。デュラム小麦は 143.6 万トンと前年同期 (99.1 万トン) と比べ 44.9%増で、国別にはイタリア 37.1 万トン (25.9%)、モロッコ 29.3 万トン (20.4%)、アルジェリア 15.6 万トン (10.9%) の順。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 4.5 百万トンと、前年度と比べ 3.6%減となる見込み。

小麦—カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	34.8	33.0	35.0 (35.0)	-	6.1
消費量	8.3	9.1	9.6 (9.1)	-	5.7
うち飼料用	3.2	4.0	4.5 (4.7)	-	13.1
輸出量	25.6	25.4	26.0 (26.2)	-	2.2
輸入量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	▲ 1.8
期末在庫量	5.6	4.6	4.5 (4.5)	0.1	▲ 2.2
期末在庫率	16.6%	13.4%	12.7% (12.6%)	0.3	▲ 0.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.10	10.70	10.65 (10.65)	-	▲ 0.5
単収(t/ha)	3.45	3.08	3.28 (3.28)	-	6.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 January 2025)

図 カナダ産小麦の種類別生産量の推移



資料: カナダ統計局のデータをもとに農林水産省で作成

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

○普通小麦 (輸出量: 万トン)

2024/25年度 (2024年8月～11月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
日本	74.9	11.1%	中国	310.3	14.7%	中国	296.8	15.1%
インドネシア	71.8	10.7%	インドネシア	251.9	11.9%	インドネシア	213.8	10.9%
ペルー	55.7	8.3%	日本	173.9	8.2%	日本	167.3	8.5%
コロンビア	46.2	6.8%	バングラデシュ	172.7	8.2%	ペルー	148.3	7.5%
エチオピア	32.4	4.8%	ペルー	137.3	6.5%	バングラデシュ	144.4	7.3%
その他	393.3	58.3%	その他	1,069.2	50.5%	その他	996.1	50.7%
計	674.3	100.0%	計	2,115.3	100.0%	計	1,966.6	100.0%

○デュラム小麦 (輸出量: 万トン)

2024/25年度 (2024年8月～11月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
イタリア	37.1	25.9%	アルジェリア	89.3	26.0%	イタリア	121.0	23.8%
モロッコ	29.3	20.4%	モロッコ	81.7	23.8%	アルジェリア	120.8	23.8%
アルジェリア	15.6	10.9%	米国	46.2	13.5%	モロッコ	85.7	16.9%
米国	14.2	9.9%	イタリア	44.7	13.0%	米国	50.4	9.9%
スペイン	9.4	6.5%	日本	21.2	6.2%	チュニジア	32.5	6.4%
その他	38.0	26.4%	その他	60.4	17.6%	その他	96.8	19.1%
計	143.6	100.0%	計	343.5	100.0%	計	507.3	100.0%

資料: カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2024/25 年度の輸出量は前年度から増加し 21.9 百万トンの見込み (ABARES)

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局 (ABARES) 「Australian Crop Report」(2024.12.3) によれば、2024/25 年度の生産量は前回予測 (2024.9.3) から 6 万トン上方修正され 31.9 百万トンと、前年度 (26.0 百万トン) と比べ 22.8%増、過去 5 年平均 (29.8 百万トン) と比べても 6.9%増となる見込み。州別の生産量は、ニューサウスウェールズ州 (NSW 州) が 12.4 百万トン (前年度比 74.8%増)、クイーンズランド州 (QLD 州) が 2.2 百万トン (同 106.5%増) とシーズンを通して十分な降雨に恵まれたことから前年度に比べ大きく増加する見込み。また、ウエスタンオーストラリア州 (WA 州) についても 10.8 百万トン (同 39.6%増) と生育後期の降雨により前年度から増加する見込み。一方、サウスオーストラリア州 (SA 州) は 3.0 百万トン (同 37.5%減)、ビクトリア州 (VIC 州) も 3.5 百万トン (同 33.7%減) とシーズンを通して降水量が少なかったことや9月に霜が降りた影響等により前年度から減少する見込み。

西豪州穀物産業協会 (GIWA) 「Crop Report」(2024.12.13) によれば、WA 州の 2024/25 年度の実生産量は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 10.83 百万トンとなる見込み。WA 州全体では非常に降雨量が少なかったものの、適時の降雨と冬の気候が温暖であったこと、病害が少なかったこと等により穀物の生産量は予想を上回る量となった。

現地情報会社によれば、1月5日現在、2024/25 年度の実生産量は 96%となっている。

【貿易情報・その他】ABARES (2024.12.3) によれば、2024/25 年度の輸出量は前回予測から 16 万トン上方修正され 21.9 百万トンと、前年度 (19.8 百万トン) と比べ 11.0%増となるものの、過去 5 年平均 (22.4 百万トン) と比べると 1.9%減となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～11 月の輸出量は 171.8 万トンと、輸出余力の減少を受け前年同期 (254.1 万トン) と比べ 32.4%減となっている。国別には、インドネシア 37.0 万トン (21.5%)、フィリピン 34.3 万トン (20.0%)、韓国 19.4 万トン (11.3%) の順。

2024/25 年度の期末在庫量は輸出量の上方修正等を受け前回予測から 7.2 万トン下方修正され 4.0 百万トンとなるものの、前年度 (2.8 百万トン) に比べ 43.8%増となる見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引上げを受け前月予測から 3 万トン上方修正され 2.6 百万トンとなるものの、輸出量の増加等を受け前年度に比べ 10.3%減となる見込み。

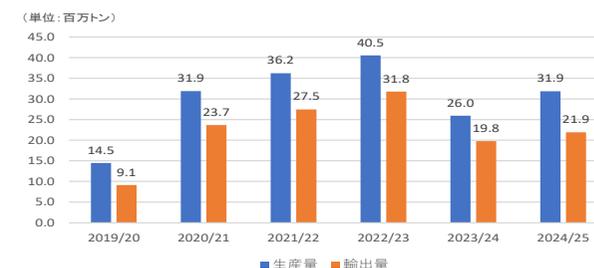
小麦－豪州(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (2024年10月～25年9月)		
			予測値、() はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	40.6	26.0	32.0 (31.9)	-	23.3
消費量	8.0	7.8	7.5 (8.7)	-	▲ 3.8
うち飼料用	4.5	4.3	4.0	...	▲ 7.0
輸出量	31.8	19.8	25.0 (21.9)	-	26.0
輸入量	0.2	0.2	0.2	...	▲ 9.1
期末在庫量	4.4	2.9	2.6 (4.0)	0.03	▲ 10.3
期末在庫率	11.0%	10.5%	8.0% (13.2%)	0.1	▲ 2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	13.05	12.37	13.00 (13.06)	-	5.1
単収(t/ha)	3.11	2.10	2.46 (2.44)	-	17.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
ABARES 「Australian Crop Report」(3 December 2024)

図 豪州の小麦の生産量・輸出量の推移



資料: ABARES「Australian Crop Report」(2024.12.3) をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年10月～11月)		2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)		2022/23年度 (2022年10月～2023年9月)				
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア			
インドネシア	37.0	21.5	中国	375.5	19.0	中国	759.2	23.9
フィリピン	34.3	20.0	インドネシア	323.5	16.4	インドネシア	502.9	15.8
韓国	19.4	11.3	フィリピン	233.6	11.8	フィリピン	307.6	9.7
ベトナム	14.2	8.3	イエメン	152.2	7.7	ベトナム	285.5	9.0
日本	12.8	7.4	日本	120.6	6.1	韓国	270.0	8.5
マレーシア	6.8	4.0	韓国	119.4	6.1	タイ	199.2	6.3
その他	47.4	27.6	その他	648.5	32.9	その他	855.7	26.9
計	171.8	100.0	計	1,973.3	100.0	計	3,180.0	100.0

資料: ABARES 「Trade dashboard」 をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25年度の生産量は前月から下方修正され119.1百万トンの見込み (EC)

【生育・生産状況】欧州委員会 (EC) 「EU Cereals Balance Sheets」 (2024.12.19) によれば、2024/25年度の生産量は、収穫面積の引下げを受け、前月予測から0.4百万トン下方修正され119.1百万トンとなる見込み。2023年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、生育期間を通じた降雨過多等により収穫面積及び単収が減少することを受け、前年度 (132.6百万トン) と比べ10.2%減、過去5年平均 (133.4百万トン) と比べても10.7%減となる見込み。このうち、普通小麦は前月予測から0.4百万トン下方修正され111.9百万トンと、前年度比10.6%減、過去5年平均比でも11.1%減となる見込み。国別にはフランスが降雨過多等を受け前年度比27.2%減の25.4百万トン、ドイツも同13.8%減の18.2百万トンとなる見込み。デュラム小麦は前月予測からわずかに上方修正され7.2百万トンとなるものの、前年度比2.7%減、過去5年平均比でも4.3%減となる見込み。国別にはイタリアが同5.1%減の3.5百万トン、フランスも同6.5%減の1.2百万トンとなる一方、スペインが干ばつからの回復により前年度比64.8%増の0.7百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】ECによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく25.7百万トンと、減産を受け前年度 (36.4百万トン) と比べ29.3%減となる見込み。2024/25年度のうち2024年7月～10月の輸出量は、995.5万トンと、前年同期 (1,231.6万トン) と比べ19.2%減。種類別には、普通小麦が970.1万トンと、前年度と比べ20.3%減となるものの、デュラム小麦は25.3万トンと、同83.4%増。一方で、USDA 「Grain: World Markets and Trade」 (2025.1.10) によれば、ロシアは2024/25年度後半の穀物輸出枠を過去5年間では最小となる1,060万トンに設定した (詳細は小麦の「ロシア」参照。)。ロシア産小麦の主要輸入国であるエジプト、トルコ、バングラデシュ等はEUなど他の小麦輸出国に頼らざるを得ず、供給量は限られるものの、EUの輸出が上向き可能性もある。

2024/25年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく10.0百万トンと、ウクライナの減産で同国からの輸入が減少すること等から前年度 (12.1百万トン) と比べ17.2%減となる見込み。2024/25年度のうち2024年7月～10月の輸入量は、369.3万トンと、前年同期 (429.8万トン) と比べ14.1%減。種類別には、普通小麦が330.8万トンと、前年度と比べ6.4%増となる一方、デュラム小麦が38.6万トンと、同67.6%減。

2024/25年度の期末在庫量は、減産等を受け前月予測から0.4百万トン下方修正され10.7百万トンと、供給量の減少から前年度 (17.9百万トン) と比べ40.5%減となる見込み。USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、期首在庫量の引上げを受け前月予測から3万トン上方修正され10.6百万トンとなるものの、生産量の減少等を受け前年度に比べ31.9%減となる見込み。

小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() はEC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	134.5	135.1	121.3 (119.1)	-	▲ 10.2
消費量	109.0	110.5	108.8 (110.6)	-	▲ 1.6
うち飼料用	45.0	46.5	44.5 (45.8)	-	▲ 4.3
輸出量	35.1	38.0	29.0 (25.7)	-	▲ 23.6
輸入量	12.2	12.7	11.5 (10.0)	-	▲ 9.1
期末在庫量	16.3	15.5	10.6 (10.7)	0.03	▲ 31.9
期末在庫率	11.3%	10.5%	7.7% (7.8%)	0.02	▲ 2.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.44	24.34	22.83 (22.32)	-	▲ 6.2
単収(t/ha)	5.50	5.55	5.31 (5.34)	-	▲ 4.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (10 January 2025)、
EC 「EU Cereals Balance Sheets」 (19 December 2024)

図 EU27の小麦生産量の推移



資料: EC 「EU cereals production, area and yield」 (2024. 12. 19) をもとに農林水産省で作成

表 EU27の小麦の輸出量及び輸入量

O輸出量				O輸入量					
国名	2024/25年度 (2024年7月～10月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		国名	2024/25年度 (2024年7月～10月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		輸入量 (万トン)	シェア (%)	輸入量 (万トン)	シェア (%)
ナイジェリア	123.2	12.4	348.9	9.6	ウクライナ	219.9	59.5	648.7	53.6
アルジェリア	108.7	10.9	393.7	10.8	カナダ	42.1	11.4	138.5	11.4
エジプト	99.3	10.0	178.5	4.9	モルドバ	28.2	7.6	73.6	6.1
モロッコ	68.2	6.8	489.1	13.4	米国	25.7	7.0	34.2	2.8
英国	63.1	6.3	140.0	3.8	トルコ	18.2	4.9	76.8	6.3
サウジアラビア	41.7	4.2	155.4	4.3	英国	14.2	3.9	52.4	4.3
その他	491.3	49.4	1,934.0	53.1	その他	21.0	5.7	187.1	15.4
合計	995.5	100.0	3,639.6	100.0	合計	369.3	100.0	1,211.2	100.0

資料: EC 「EU trade for cereals」 (2024. 12. 19) をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2024/25 年度の輸出量は前月から下方修正され 46.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量（クリミア地域分を含まず）は、前月予測からの変更なく 81.5 百万トンと、前年度と比べ 10.9%減、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べても 2.4%減となる見込み。種類別には、冬小麦が 57.5 百万トンと、前年度（64.0 百万トン）に比べ 10.2%減。春小麦も 24.0 百万トンと、前年度（27.5 百万トン）に比べ 12.7%減となる見込み。

ロシア連邦統計庁（2024.12.25）によれば、2024/25 年度の小麦の生産量は 8,242 万トンと、前年度（9,285 万トン）と比べ 11.2%減、過去 5 年平均（8,670 万トン）と比べても 4.9%減となる見込み。ロシア気象センターによれば、12 月の気温はロシア全域で平年より 2～4℃高かった。中・下旬には寒波が到来したものの、越冬中の 2025/26 年度の冬小麦を含む秋播き作物に影響はなかった。

【貿易情報・その他】ロシア連邦政府は、2024 年 12 月 20 日、2024/25 年度後半（2025 年 2 月 15 日～6 月 30 日）に小麦及びメスリンに設定される輸出枠を 1,060 万トン（前年度 2,900 万トン）とすることを発表した。当該枠外の輸出については、50%（ただし最低の輸出関税は 100 ユーロ/トン）の輸出関税が課されることとなる。USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2025.1.10) によれば、ロシアは、2024/25 年度の供給量が大きく減少しているにもかかわらず、2024/25 年度前半（2024 年 7 月～12 月）で 29.4 百万トンを輸出しており、史上最高の輸出量となった前年度同期（27.7 百万トン）を上回っている。12 月 1 日現在のロシアの農場の小麦在庫は前年比 25%減となっており、ロシア連邦政府は、ロシア国内への供給を維持し、食料品価格の上昇を抑制するため、2024/25 年度後半の輸出枠を 1,060 万トンに設定した。当該穀物輸出枠は過去 5 年間で最小であり、2025 年 2 月以降、ロシアの輸出は減速する見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、輸出ペースの鈍化及び年度後半の輸出枠の設定を受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 46.0 百万トンと、史上最高の輸出量となった前年度と比べ 17.1%減となるものの、過去 5 年平均（42.4 百万トン）と比べれば 8.4%増と史上 3 番目の輸出量となる見込み。

現地情報会社によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～12 月の輸出量は 2,854.0 万トンと、前年同期（2,715.6 万トン）と比べ 5.1%増となっている。国別には、エジプト 527.7 万トン（18.5%）、バングラデシュ 219.5 万トン（7.7%）、トルコ 191.8 万トン（6.7%）の順。

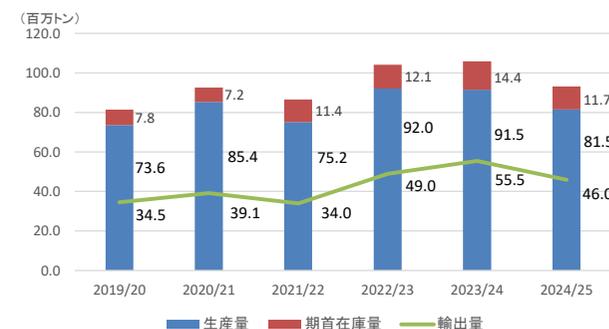
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量の引下げを受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 9.2 百万トンとなるものの、前年度に比べ 21.0%減となる見込み。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

(単位：百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	92.0	91.5	81.5 (81.8)	-	▲ 10.9
消費量	41.0	39.0	38.3 (39.0)	-	▲ 1.9
うち飼料用	18.0	16.0	15.5 (16.0)	-	▲ 3.1
輸出量	49.0	55.5	46.0 (44.2)	▲ 1.0	▲ 17.1
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-
期末在庫量	14.4	11.7	9.2 (9.5)	1.0	▲ 21.0
期末在庫率	16.0%	12.4%	11.0% (11.4%)	1.3	▲ 1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.00 (27.73)	-	▲ 2.9
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.91 (2.95)	-	▲ 8.2
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(10 January 2025) IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)					

図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省で作成

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年12月)		2024/25年度 (2024年7月～12月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
エジプト	60.3	エジプト	527.7	エジプト	868.3
バングラデシュ	55.1	バングラデシュ	219.5	トルコ	691.9
サウジアラビア	39.7	トルコ	191.8	バングラデシュ	350.2
トルコ	19.6	アルジェリア	166.3	アルジェリア	236.8
スーダン	18.7	ケニア	131.8	サウジアラビア	224.8
イエメン	16.3	ナイジェリア	114.5	カザフスタン	222.2
ケニア	16.1	サウジアラビア	99.6	パキスタン	213.0
その他	150.5	その他	1,402.8	その他	2,608.8
計	376.3	計	2,854.0	計	5,410.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

<ウクライナ> 2024/25年度の輸出量は前月から下方修正され16.0百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量（クリミア地域分を含む）は、前月予測からの変更はなく22.9百万トンと、3月以降、降水量が平年を下回り乾燥が続いた影響により前年度に比べ0.4%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べても18.0%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2024年12月上・中旬は温暖な気候により2025/26年度の冬小麦を含む秋播き作物は越冬に耐えうる状態まで生長した。下旬は比較的寒暖差が大きく、越冬にあたり耐寒性を獲得する上で適した気候となった。12月末現在の秋播き作物の作柄は、大部分の圃場で平年並み又は良好となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、製粉用小麦の供給不足を受け前月予測から0.5百万トン下方修正され16.0百万トンと、供給量の減少により前年度と比べ13.9%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べても11.6%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2024年9月3日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の附属書を締結し、2024/25年度の小麦の輸出上限は1,620万トンに設定された。

また、ウクライナ政府は2024年12月1日から輸出許可制度を廃止し、輸出安全保障制度を導入した。当該制度では、最低輸出価格の設定、付加価値税の納税者のみの輸出、輸出業者の管理のため銀行及び税務当局との間での電子データ情報の交換が定められている。

2024/25年度のうち2024年7月～12月の輸出量は986.6万トンと、前年同期（762.6万トン）と比べ29.4%増となっており、2024/25年度の輸出上限1,620万トンに対し本年度半年で60.9%を輸出している。国別にはスペイン235.8万トン（23.9%）、インドネシア155.1万トン（15.7%）、ベトナム81.6万トン（8.3%）の順となっており、前年度同様スペインが首位である一方、インドネシア、ベトナム、タイといったアジア諸国のシェアが増加している。一方で12月のみの輸出量は過去3か年で最小となっており、現地情報会社によれば、専門家は12月に導入された輸出安全保障制度によって輸出検査が厳格になり輸出の遅れをもたらしたと指摘している。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、輸出量の引下げ等を受け前月予測から0.2百万トン上方修正され1.0百万トンと、前年度に比べ39.4%増となるものの、史上3番目に低い水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	21.5	23.0	22.9 (25.4)	-	▲ 0.4
消費量	7.8	6.7	6.7 (9.4)	0.3	-
うち飼料用	3.0	2.0	2.0 (1.4)	0.3	-
輸出量	17.1	18.6	16.0 (16.2)	▲ 0.5	▲ 13.9
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3
期末在庫量	2.9	0.7	1.0 (0.7)	0.2	39.4
期末在庫率	11.8%	2.8%	4.4% (2.6%)	0.9	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	5.20 (6.17)	-	3.8
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.40 (4.11)	-	▲ 4.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年12月)		2024/25年度 (2024年7月～12月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
アルジェリア	22.2	スペイン	235.8	スペイン	589.9
スペイン	14.9	インドネシア	155.1	エジプト	172.1
エジプト	13.6	ベトナム	81.6	インドネシア	151.5
チュニジア	13.3	エジプト	80.0	トルコ	107.8
イタリア	6.9	アルジェリア	74.8	ルーマニア	100.1
オランダ	3.6	タイ	63.8	パキスタン	81.4
モロッコ	1.4	バングラデシュ	46.7	ベトナム	75.1
イエメン	1.2	チュニジア	44.8	バングラデシュ	73.7
ギリシャ	0.9	イタリア	39.5	イタリア	67.7
ドイツ	0.7	イエメン	29.8	アルジェリア	63.3
その他	1.4	その他	134.9	その他	358.0
合計	80.1	合計	986.6	合計	1,840.6

資料: APK-Inform Agencyのデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2024/25 年度の輸入量は前月から下方修正され 10.5 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、単収の引上げを受け前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 140.1 百万トンと、前年度と比べ 2.6%増、過去 5 年平均 (135.8 百万トン) と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」(2024.12.13) によれば、2024/25 年度の小麦の作付面積は 23.59 百万ヘクタールと、前年度 (23.63 百万ヘクタール) に比べ 0.2%減となるものの、単収は 5.94 トン/ヘクタールと、前年度 (5.78 トン/ヘクタール) と比べ 2.7%増となり、生産量も 140.1 百万トンと、前年度 (136.6 百万トン) と比べ 2.6%増。

中国農業農村部「農産品供需形成分析月報 2024 年 11 月号」によれば、主要生産地において、2025/26 年度の冬小麦の作付けがほぼ終了した。11 月上旬から中旬にかけ、ほとんどの地域で例年よりも気温が高く、土壌水分も良好であったことから、冬小麦の作付けや発芽、幼苗の生長に適していた。下旬には、ほとんどの地域において強風と気温低下がみられたものの、冬小麦の生育に大きな影響はなかった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 151.0 百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24 年度に飼料用グレードの国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ 1.6%減となるものの、過去 5 年平均 (146.1 百万トン) と比べれば 3.4%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、低調な輸入を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 10.5 百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和したことから、前年度に比べ 23.0%減となる見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～11 月までの輸入量は 174.6 万トンと、増産を受け前年同期 (348.2 万トン) と比べ 49.9%減となっている。国別には、カナダ 57.9 万トン (33.2%)、米国 46.2 万トン (26.5%)、ロシア 24.1 万トン (13.8%) の順となっており、豪州が 2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の 49.6%から 11.3%と大きくシェアを減らしている一方で、米国及びロシアが大きくシェアを伸ばしている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げ等を受け前月予測から 0.4 百万トン下方修正され 133.1 百万トンと、前年度に比べ 1.0%減となる見込み。

小麦—中国 (冬小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	137.7	136.6	140.1 (140.0)	0.1	2.6	
消費量	148.0	153.5	151.0 (146.8)	-	▲ 1.6	
うち飼料用	33.0	37.0	33.0 (28.0)	-	▲ 10.8	
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	▲ 3.8	
輸 入 量	13.3	13.6	10.5 (10.2)	▲ 0.5	▲ 23.0	
期末在庫量	138.8	134.5	133.1 (142.4)	▲ 0.4	▲ 1.0	
期末在庫率	93.2%	87.0%	87.6% (96.2%)	▲ 0.3	0.5	

(参考)

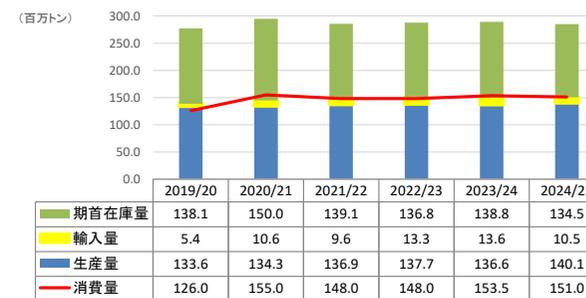
収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.59 (23.65)	▲ 0.11	▲ 0.2
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.94 (5.92)	0.03	2.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(10 January 2025)

IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 中国の小麦の供給量と消費量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2025.1.10) をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

(輸入量: 万トン、シェア: %)

国 名	2024/25年度 (2024年7月～11月)		2023/24年度 (2023年7月～11月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
カナダ	57.9	33.2	86.7	24.9	307.8	23.0
米国	46.2	26.5	34.7	10.0	181.8	13.6
ロシア	24.1	13.8	18.9	5.4	43.0	3.2
カザフスタン	23.8	13.6	33.2	9.5	66.8	5.0
豪州	19.8	11.3	172.7	49.6	503.5	37.7
日本	2.0	1.1	1.4	0.4	3.3	0.2
フランス	0.7	0.4	0.3	0.1	230.1	17.2
その他	0.1	0.1	0.4	0.1	0.6	0.0
計	174.6	100.0	348.2	100.0	1,336.7	100.0

資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・中国、ガーナ、ロシアで上方修正されたものの、米国で下方修正され、前月から下方修正された。

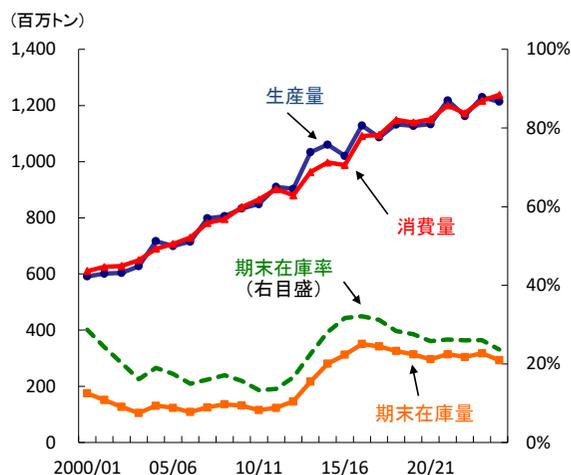
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、日本、韓国等で下方修正されたものの、ブラジル、ガーナ、トルコ、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ブラジル、米国で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省にて作成。

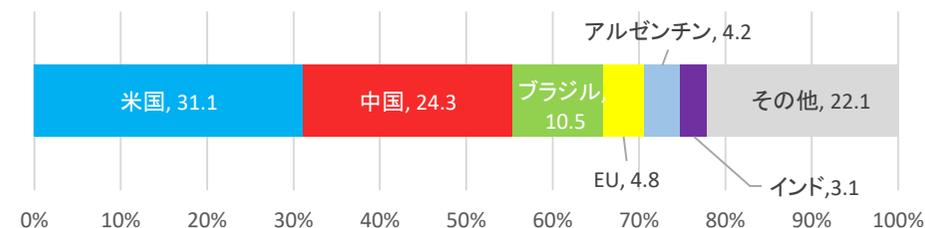
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,163.4	1,230.0	1,214.4	▲ 3.5	▲ 1.3
消費量	1,172.8	1,217.2	1,238.5	0.8	1.7
うち飼料用	735.5	772.0	778.3	▲ 1.0	0.8
輸出量	180.3	192.0	191.4	▲ 1.6	▲ 0.3
輸入量	173.4	197.1	183.2	▲ 0.8	▲ 7.1
期末在庫量	304.7	317.5	293.3	▲ 3.1	▲ 7.6
期末在庫率	26.0%	26.1%	23.7%	▲ 0.3	▲ 2.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 January 2025)

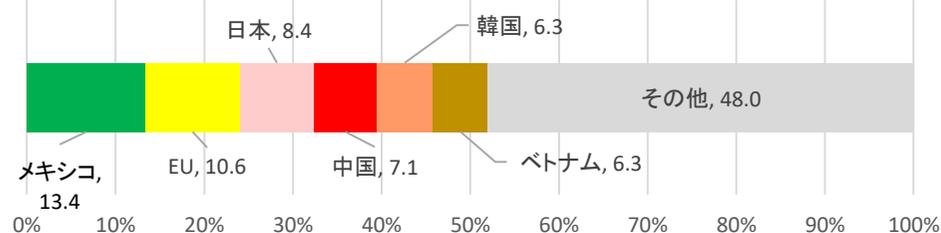
○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの生産量(1,214.4百万トン) (単位：%)



○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸出量(191.4百万トン) (単位：%)



○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸入量(183.2百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 2024/25年度の生産量は史上最高の前年度から3.1%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、単収の引下げを受けて前月予測から7.0百万トン下方修正され、収穫面積の減少（対前年度比4.2%減）を受け、史上最高の前年度より3.1%減の377.6百万トンとなったものの、史上4番目に高い見通し。収穫面積の減少は、作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作で価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたことによる。なお、業界情報によれば、8月以降の生育後期における乾燥を受けて、とうもろこしの水分含量が想定より低かったことにより、単収実績が下がったとみられる。一方で、容積重（容積当たりの重量）は過去10年で最高となり、品質は良好とみられる。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、飼料用消費の減少を受けて、前月予測から1.3百万トン下方修正され、前年度に比べ0.1%減の321.7百万トンの見通し。飼料用消費の引下げは、供給量の減少に加えて、2024年9～12月の飼料用消費量が前年同期から5.7%減の58.4百万トンとなったことによる。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、供給減を受けて前月予測から0.6百万トン下方修正されたものの、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度より6.9%増の62.2百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.1.10）によれば、米国産の輸出価格は、1月6日現在、2024年9～12月の米国産の堅調な需要を受けて前月から9ドルトン上昇し、214ドルトンと、ブラジル産（225ドルトン）を下回り、アルゼンチン産と同水準と、価格競争力を有している。なお、2024年9～12月の輸出量は1,238.0万トンと、前年同期の1,233.5万トンより0.4%増。主な輸出先は、メキシコ494.9万トン（国別シェア40.0%）、日本202.5万トン（同16.4%）、コロンビア187.4万トン（同15.1%）の順。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、生産量の引下げを受けて、前月予測から5.0百万トン下方修正され、前年度より12.7%減の39.1百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より1.6ポイント減少し10.2%と、過去5年平均（10.7%）を下回っている。

とうもろこし—米国

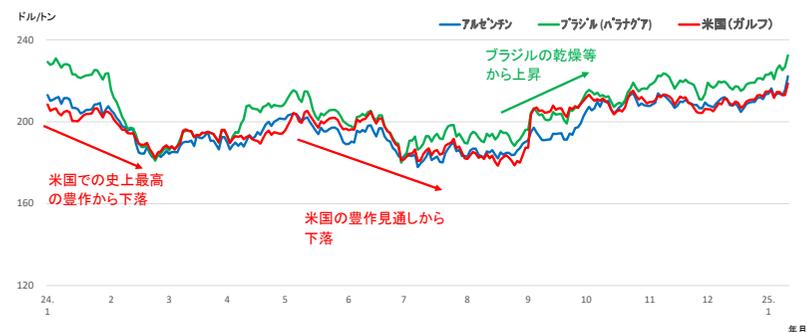
（概ね4～5月に作付けされ、9～11月に収穫される。）

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.7	389.7	377.6	▲ 7.0	▲ 3.1
消費量	305.9	321.9	321.7	▲ 1.3	▲ 0.1
うち飼料用	139.4	147.4	146.7	▲ 1.3	▲ 0.5
エタノール用等	131.5	139.1	139.7	-	0.4
輸出量	42.2	58.2	62.2	▲ 0.6	6.9
輸入量	1.0	0.7	0.6	-	▲ 11.1
期末在庫量	34.6	44.8	39.1	▲ 5.0	▲ 12.7
期末在庫率	9.9%	11.8%	10.2%	▲ 1.3	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.55	0.08	▲ 4.2
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.26	▲ 0.23	1.2

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)

図 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 4.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上 2 番目に高い生産量となる見通し。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2025.1.14) によれば、2024/25 年度のうち夏とうもろこしの生産量は、前年度比 3.3%増の 119.6 百万トンの見込み。夏とうもろこし (ブラジルのクロップカレンダー (図) 参照) は、生産コストの増加による大豆等の他作物への作付けシフトによる作付面積の減少等を受けて、前年度比 1.9%減の 22.5 百万トンの見込み。12 月末現在、作付進捗率は 81%と、前年同期 (80%) を上回っている。一方、冬とうもろこしは、単収の増加等を受け、前年度比 4.6%増の 97.0 百万トンの見込み。1 月上旬に中西部のマット・グロッソ州等で作付けが開始された。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」 (2025.1.14) によれば、1 月上旬、夏とうもろこしの主要生産地の南部では乾燥が続く、土壌水分量が限定され、単収の減少に対する懸念が高まる一方、冬とうもろこしの主要生産地の中西部では降雨があり、作付けに好影響を与えるとみられる。

なお、CONAB によれば、2024/25 年度は大豆の作付け開始と収穫が遅れているため、大豆収穫後に作付けされる冬とうもろこしの作付けに適した期間は短くなるとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の実消費量は、生産施設の新設によるエタノールの増産見通しを受けて前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、前年度から 2.9%増の 87.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の実輸出量は、輸出実績を受けて前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、増産を受けて前年度より 19.0%増の 47.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～12 月の輸出量は 39.8 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年同期比 32%減。内訳は、エジプト 5.5 百万トン (国別シェア 13.7%)、ベトナム 4.6 百万トン (同 11.7%)、イラン 4.3 百万トン (同 10.9%) の順。国内のエタノール消費の増加を受け、2023/24 年産の冬とうもろこしの輸出量は引き続き低調となっている。

とうもろこしーブラジル

(夏とうもろこしは、概ね 8～翌年 1 月に作付けされ、2～4 月に収穫される。冬とうもろこしは、大豆収穫後の概ね 1～3 月に作付けされ、6～10 月に収穫される。)

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)			
			予測値、() はCONAB		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	137.0	122.0	127.0	(119.6)	-	4.1
消費量	78.0	85.0	87.5	(86.4)	2.0	2.9
うち飼料用	61.5	63.5	64.0	...	-	0.8
輸出量	54.3	39.5	47.0	(34.0)	▲ 1.0	19.0
輸入量	1.3	1.3	1.5	(1.7)	-	15.4
期末在庫量	10.0	8.8	2.8	(3.4)	-	▲ 67.9
期末在庫率	7.6%	7.1%	2.1%	(2.8%)	▲ 0.02	▲ 5.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	22.40	21.50	22.30	(20.96)	-	3.7
単収(t/ha)	6.12	5.67	5.70	(5.70)	-	0.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (10 January 2025)

CONAB 「Graos」 (14 January 2025)

図 ブラジルのクロップカレンダー (中部から南部)

2024/25 年度の夏とうもろこしの作付けは、2024 年 9 月以降、順次開始。
冬とうもろこしの作付けは、2025 年 1 月以降、大豆の収穫後に開始。

2024/25 年度	2024 年				2025 年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・ノース州等)	作付 3.7 (百万ha)				収穫 22.5 (百万t)					収穫夏冬作計 119.6 百万t			
冬とうもろこし (マット・グロッソ州、パラナ州等)	作付面積夏冬作計 21.0 百万ha				作付 17.2 (百万ha)					収穫 97.0 (百万t)			
大豆 (マット・グロッソ州、パラナ州等)	作付 47.4 (百万ha)				収穫 166.3 (百万t)					大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし作付け			

資料: CONAB 「Graos」 (2025.1.14) をもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.0%増、過去 5 年平均 (49.7 百万トン) より 2.6%増の 51.0 百万トンの見込み。病虫害のヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆への作付けシフトが見込まれることから収穫面積が減少するものの、前年度に比べ単収が平年並み (凶作年を除く過去 10 年平均 7.94 トン/ヘクタール) に増加すると見込まれることによる。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2025.1.14) によれば、1 月上旬、中部及び東部の主要生産地では高温乾燥が広がり、とうもろこしの生育に悪影響を与えており、降雨が必要とされている。アルゼンチン政府によれば、1 月 9 日現在、作付進捗率は 93%と、前年同期 (88%) より進んでいる。

USDA 「World Agricultural Production」(2025.1.10) によれば、昨年遅植えとうもろこしにヨコバイが大量発生し作柄が悪化した一方、早植えとうもろこしは被害を免れたことから、多くの農家が例年より多くの早植えとうもろこしを作付けした。これにより作付進捗率は前年同期よりも進んでいるとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、前年度から 14.4%増の 16.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて、前年度より 5.9%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～11 月の輸出量は 3,249.9 万トンで、2022/23 年度の減産から回復したことを受け、前年同期 (2,276.3 万トン) 比で 43%増となった。内訳は、ベトナム 648.8 万トン (国別シェア 20.0%)、ペルー 386.9 万トン (同 11.9%)、マレーシア 300.0 万トン (同 9.2%) の順。

アルゼンチン政府は、2021 年 12 月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024 年 5 月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、これを継続していたが、2025 年 1 月 25 日、1 月 27 日～6 月 30 日まで一時的にとうもろこしの輸出税を 9.5%に引き下げると発表した。

とうもろこしーアルゼンチン

(早植えとうもろこしは、概ね 9 月後半～12 月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、概ね 12 月前半～翌年 2 月前半に作付けされる。概ね 3～8 月に収穫される。)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、() はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	37.0	50.0	51.0 (54.0)	-	2.0
消費量	14.2	14.3	16.3 (20.5)	-	14.4
うち飼料用	10.0	10.0	12.0 (15.4)	-	20.0
輸 出 量	25.2	34.0	36.0 (35.0)	-	5.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0
期末在庫量	2.3	4.1	2.8 (1.6)	-	▲ 31.8
期末在庫率	5.9%	8.5%	5.3% (2.9%)	-	▲ 3.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.20	7.00	6.40 (7.50)	-	▲ 8.6
単収(t/ha)	5.14	7.14	7.97 (7.20)	-	11.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 アルゼンチン産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025.1.10) をもとに農林水産省にて作成

写真 北部サンタフェ州のとうもろこしの圃場風景 (2024 年 12 月 27 日撮影)



当圃場のとうもろこしは、9 月上旬に作付けられ、現在は開花期～乳熟期にある。収穫作業は 3 月前半を予定。

撮影者：José Daniel Peloni

< ウクライナ > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 18.5%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、前年度より 18.5%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 37.1%減の 26.5 百万トンとなる見込み。収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、7 月以降の高温乾燥の継続を受けて豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 16.5%減）することにより、減産となる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、11 月 28 日現在、収穫進捗率は 96%と、収穫作業は概ね完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加を受けて前年度より 4.7%増の 4.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、減産を受け、前年度より 22.0%減の 23.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、臨時回廊による輸出が増加していることを受けて前年度より 8.9%増の 29.5 百万トンの見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 10~12 月の輸出量は 702.2 万トンと、前年同期（673.0 万トン）より 4.3%増。輸出先国は、トルコ 157.9 万トン（国別シェア 22.5%）、スペイン 110.8 万トン（同 15.8%）、イタリア 109.3 万トン（同 15.6%）の順。輸出手段別では、港湾経由が 657.9 万トン（シェア 93.7%）、鉄道経由が 40.5 万トン（同 5.8%）と港湾経由が主な輸送手段となっている。鉄道輸送については、ウクライナと EU で鉄道の軌間が異なることが輸送のネックとなっているとみられる。

報道情報（2024.12）によれば、ウクライナ鉄道は、2027 年までに、欧州の国際輸送に繋がる一部区画で EU の標準軌となる鉄道の敷設事業を実施する予定。また、ポーランドは、2026 年までに主要港湾のグダンスク港に大規模穀物ターミナルを建設する見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減から前年度より 59.2%減、侵攻前の 5 か年平均より 74.7%減の 0.6 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 2.3 ポイント減の 2.3%と、2000/01 年度以降で最低の水準となる見込み。

とうもろこし-ウクライナ

（概ね 4~5 月に作付けされ、8~11 月に収穫される。）

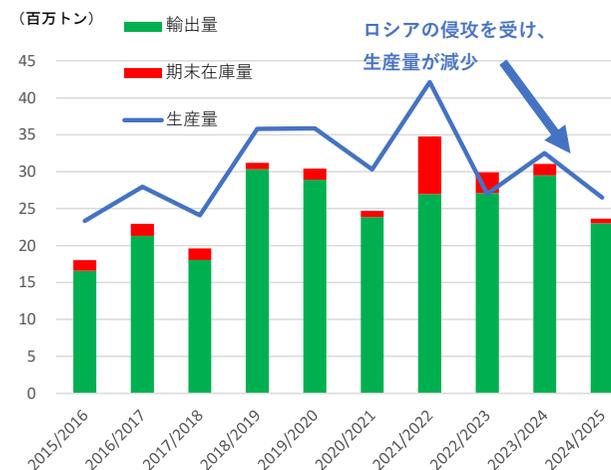
（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月~25年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.0	32.5	26.5 (26.0)	-	▲ 18.5
消費量	4.9	4.3	4.5 (4.7)	-	▲ 4.7
うち飼料用	4.0	3.3	3.5 (3.3)	-	▲ 6.1
輸出量	27.1	29.5	23.0 (21.6)	-	▲ 22.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 100.0
期末在庫量	2.8	1.6	0.6 (0.7)	-	▲ 59.2
期末在庫率	8.7%	4.7%	2.3% (2.6%)	-	▲ 2.3
（参考）					
収穫面積(百万ha)	4.05	4.20	4.10 (4.00)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	6.67	7.74	6.46 (6.50)	-	▲ 16.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移

（2024/25 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見込み）



資料：USDA「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省にて作成。

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、中国国家统计局の報告における収穫面積及び単収の増加を受けて、前月予測から 2.9 百万トン上方修正され、収穫面積の増加見込みを受けて、前年度より 2.1%増の 294.9 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」(2024.12.13)によれば、2024 年の生産量は前年より 2.1%増の 294.9 百万トンとなる見込み。作付面積が 4,474 万ヘクタールと前年より 1.2%増加し、単収も 6.59 トン/ヘクタールと、前年より 0.9%増加したことによる。なお、一部地域で洪水や干ばつ、台風等の被害を受けたものの、大半では気象条件は良好であり、生育に有利に働いたとみられる。

なお、中国政府は、2024 年、とうもろこしの生産者向け補助金の増額等の生産者支援政策を拡大している。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大することから、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局 (2025.1.17) によれば、2024 年の食肉生産量は 9,663 万トンと、前年比で 0.2%増。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、増産を受けて前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、国内のデフレ圧力により国内価格が低下し、輸入意欲が低下するとの見通しを受けて前年度より 44.5%減の 13.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～11 月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 39.4%減の 1,343.1 万トンの見込み。内訳は、ブラジル 634.6 万トン (47.2%)、ウクライナ 462.6 万トン (34.4%)、米国 206.5 万トン (15.4%) の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 11 月号」によると、11 月の国内価格は、2,280 元/トンと前月 (2,200 元/トン) から上昇した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引上げを受けて前月予測から 1.9 百万トン上方修正されたものの、輸入量の減少を受けて前年度より 2.4%減の 206.2 百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

(春とうもろこしは、概ね 2～4 月に作付けされ、7～9 月に収穫される。
夏とうもろこしは、概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。)

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	277.2	288.8	294.9 (296.0)	2.9	2.1
消費量	299.0	307.0	313.0 (315.2)	-	2.0
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (213.0)	-	2.7
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	18.7	23.4	13.0 (13.0)	▲ 1.0	▲ 44.5
期末在庫量	206.0	211.3	206.2 (176.9)	1.9	▲ 2.4
期末在庫率	68.9%	68.8%	65.9% (56.1%)	0.6	▲ 3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.74 (44.90)	0.04	1.2
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.59 (6.59)	0.06	0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024)

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

2024年1月～11月			2023年1月～12月			2022年1月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	634.6	47.2	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	462.6	34.4	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	206.5	15.4	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	12.4	0.9	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
ブルガリア	7.6	0.6	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
ミャンマー	5.9	0.4	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	13.6	1.1	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	1,343.1	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- 中国、バングラデシュで下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

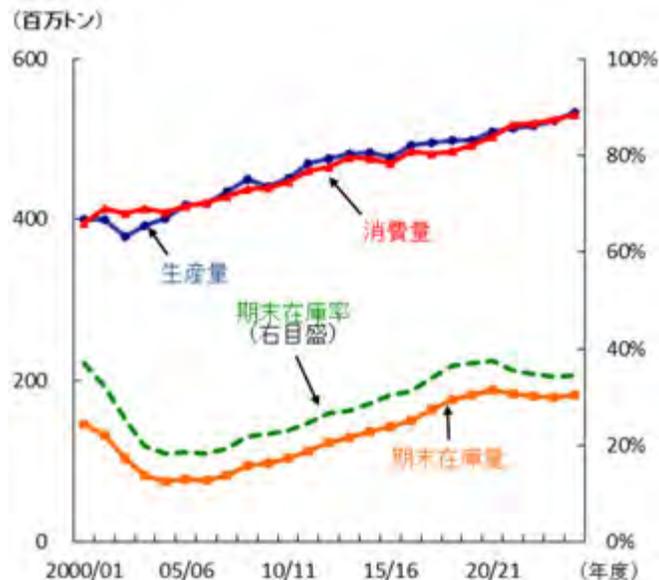
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- 中国、バングラデシュ、タンザニア等で下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- タイ、ベトナム等で下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省にて作成

◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	516.7	522.6	532.9	▲ 0.8	2.0
消費量	520.3	523.8	530.2	▲ 0.1	1.2
輸出量	55.2	57.0	57.9	▲ 0.2	1.7
輸入量	57.3	53.0	54.1	▲ 0.7	2.1
期末在庫量	180.7	179.5	182.1	▲ 0.3	1.5
期末在庫率	34.7%	34.3%	34.3%	▲ 0.1	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 January 2025)

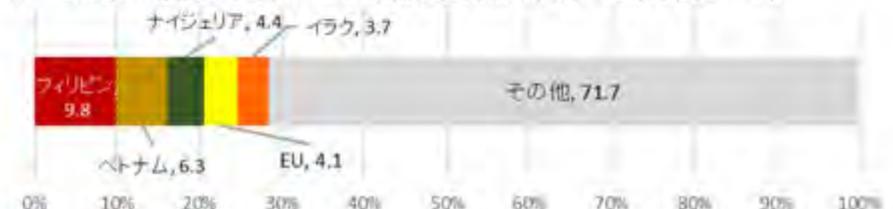
○ 2024/25年度の世界のコメの生産量(532.9百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸出量(57.9百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸入量(54.1百万トン)(単位：%)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、20.1百万トンと、前年度に比べ0.5%増加する見込み。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」(2024.12)によれば、2024/25年度の雨季米(2024年5月～10月作付け)は、農家は収穫を終え、乾季米の作付準備をしている。生産量は、良好な天候から、前年度に比べ0.8%増の27.0百万トン(粳ベース)の見込み。作付面積は、前年度の994万ヘクタールから992万ヘクタールに減少する見込み。コメの市場価格が高いことから作付面積を増加させる生産者がいる一方、天候への懸念から乾燥に強いキャッサバや市場価格が高騰しているサトウキビへの作付けのシフトも行われている。

2024/25年の乾季米(2024年11月～2025年4月作付け)の作付面積は、雨季中の降雨が多く、十分な灌漑用水を供給できることから、前年度から19%増の192万ヘクタールと予測されている。

アセアン食料安全保障情報システム(2024.12)によると、12月時点で雨季米の収穫は、960万ヘクタールとほぼ終了。作柄は良好、生産量は27.0百万トン(粳ベース)と僅かに増加した。

同(2025.1)によると、2024/25年度の乾季米の作付面積は、前年度に比べ約18%増加する見込み。豊富な水の供給と良好な気象条件により、単収は増加すると予測されている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、インドネシア政府の輸入減の予測を受け、前月予測から0.2百万トン下方修正、前年度から25.0%減少し、7.5百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024年1～11月の輸出量は、前年同期比16.0%増の919万トンで、主な輸出先国は、インドネシア118万トン(国別シェア13%)、イラク95万トン(同10%)、南アフリカ80万トン(同9%)、米国77万(同8%)。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシア向けの輸出量は、118万トンと輸出先国の中で最大となっている。

タイ米輸出業者協会は、インド政府による輸出規制撤廃に加え、世界的に生産量の増加が見込まれることから、国際市場での競争が激化し、2024/25年度のインドネシア向け輸出は大幅に減少すると見込んでいる。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

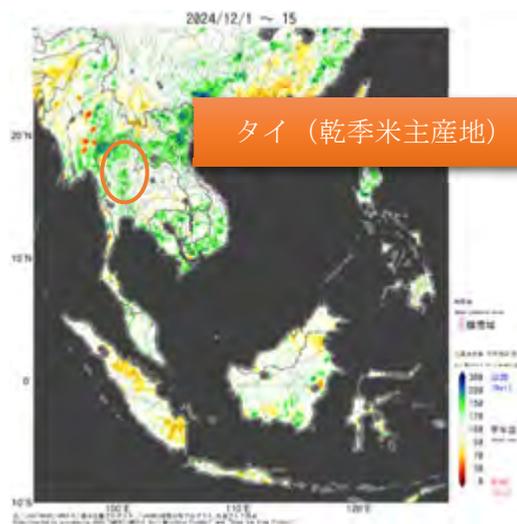
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	20.9	20.0	20.1 (20.1)	-	0.5	
消費量	12.3	12.3	12.3 (12.4)	-	-	
輸出量	8.7	10.0	7.5 (7.6)	▲ 0.2	▲ 25.0	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.0)	-	-	
期末在庫量	4.4	2.2	2.6 (3.3)	0.2	18.6	
期末在庫率	20.7%	9.6%	12.9% (16.6%)	1.1	3.2	

(参考)

収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70 (10.70)	-	0.5	
単収(粳t/ha)	2.86	2.85	2.85 (1.88)	-	-	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024) (単収は精米t/ha)

図 東南アジア土壤水分量年対比(2024. 12. 1～15)



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム (JASMAI)

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測から収穫面積が下方修正されたものの、単収が上方修正されたことにより 0.07 百万トン増。前年度から 1.9%増加し、7.1 百万トンと 2020/21 年度以降最大となる見込み。

同「Rice Outlook」(2025.1.14)によれば、2024/25 年度の種別生産量は、長粒種は、収穫面積、単収ともに増加し、前年度より 12%増の 5.5 百万トンとなる見込み。一方、中・短粒種は、南部の生産州及びカリフォルニア州における収穫面積の減少を受け 1.6 百万トンと前年度より 22%減少する見込み。

【貿易情報・その他】同「Rice Outlook」(2025.1.14)によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 4.2%増の 1.5 百万トンと史上最高の見込み。

長粒種の輸入量は、前月予測からの変更はなく、引き続きタイ及びインドを中心としたアジア諸国からの香り米の輸入が継続する見込みを受け、前年度に比べ 4.5%増の 1.24 百万トンと史上最高の見込み。

中・短粒種の輸入量は、前月予測から変更はなく、前年度に比べ 3%増の 0.24 百万トンと、引き続き中国、タイ、インド及びイタリアからの輸入が継続する見込み。

2024/25 年度の輸出量は 3.2 百万トンと、前月予測から変更はないものの、輸出余力の増加から、前年度に比べ 1.9%増加し、2016/17 年度以降最高となる見込み。

同「Exports Sales Query System」(2024.12)によれば、2023/24 年度(2023 年 8 月～2024 年 7 月)の輸出量は 327.7 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 90.6 万トン(国別シェア 27.7%)、ハイチ 34.5 万トン(同 10.5%)、日本 29.6 万トン(同 9.0%)の順。種別には、長粒種は、輸出量 263.4 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 84 万トン(国別シェア 31.9%)、ハイチ 34.5 万トン(同 13.1%)、ベネズエラ 21.7 万トン(同 8.2%)。中・短粒種は、輸出量 64.3 万トンで、主な輸出先国は、日本 29.6 万トン(国別シェア 46.0%)、韓国 13.8 万トン(同 21.5%)、メキシコ 6.6 万トン(同 10.3%)。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正となるものの、前年度に比べ 8.7%増加し、1.4 百万トンの見込み。

コメー米国

長粒種の生産量が 75%を占め、中・短粒種の生産量は 25%、その内カリフォルニア州での栽培が 20%

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 8月～25年 7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.1	6.9	7.1	0.1	1.9
消費量	4.6	4.9	5.2	0.2	6.5
輸出量	2.1	3.1	3.2	-	1.9
輸入量	1.3	1.4	1.5	-	4.2
期末在庫量	1.0	1.3	1.4	▲ 0.1	8.7
期末在庫率	14.4%	15.8%	16.4%	▲ 1.6	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.16	▲ 0.01	-
単収(収t/ha)	8.28	8.56	8.69	0.18	1.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)

図 米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料：USDA「Rice Outlook」(2025.1.14)をもとに農林水産省で作成。
価格は年度内の平均価格

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、12月13日付の中国国家统计局の公表データに基づき、前月予測から 0.7 百万トン下方修正されるものの、政府の最低支持価格の上昇により、収穫面積が増加（前年度比 0.2%増）することから、前年度比 0.5%増の 145.3 百万トンとなる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は、作付面積 29.0 百万ヘクタール（前年度比 0.2%増）及び単収 7.15 トン/ヘクタール（同 0.1%増）の増加から、前年度に比べ 0.5%増の 207.5 百万トン（粳ベース）の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 145.5 百万トンとなる見込み。飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い食用需要が減少することから、前年度比で 1.8%減少する見込み。なお、消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、世界のコメ価格の下落を受けベトナム、ミャンマー、パキスタン、タイ、カンボジアといった伝統的なインディカ米の供給国からの輸入が増加するとの予測から、前年度比 11.1%増の 1.7 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、11 月の輸入量は、前月に比べ 5.58 万トン増加し、17.15 万トン（前月比 48.26%増）。国際的なコメ価格の下落により中国国内産米との価格差が縮小したとみられる。

2024 年 1～11 月の輸入量は 125.0 万トン（前年同期 53%減）。内訳は、ミャンマー 46.1 万トン（国別シェア 36.9%）、タイ 31.7 万トン（同 25.4%）、ベトナム 26.2 万トン（同 20.9%）の順。

USDAによれば、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っているものの、軟調な需要に基づく輸出が継続すると予測されることから、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比 38.7%減の 1.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の期末在庫量は、103.5 百万トンと、生産量の下方修正を受け、0.5 百万トン下方修正されたものの、前年度に比べ 0.5%増の見込み。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	146.0	144.6	145.3 (145.0)	▲ 0.7	0.5
消費量	155.0	148.1	145.5 (145.2)	▲ 0.2	▲ 1.8
輸出量	1.7	1.6	1.0 (1.6)	-	▲ 38.7
輸入量	4.4	1.5	1.7 (2.4)	-	11.1
期末在庫量	106.6	103.0	103.5 (102.1)	▲ 0.5	0.5
期末在庫率	68.0%	68.8%	70.7% (69.5%)	▲ 0.2	1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.01 (29.00)	0.01	0.2
単収(粳t/ha)	7.08	7.14	7.15 (5.00)	▲ 0.04	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024) (単収は精米t/ha)

図 中国の生産量、収穫面積、単収の推移 (2004/05～2024/25 年度)



資料：USDA「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省にて作成

< インド > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 5.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測から変更はなく、145.0 百万トンと、前年度比で 5.2%増加、過去 5 年平均（129.3 百万トン）と比べ 12.2%増加し、史上最高の見込み。収穫面積は、前月予測から変更はなく、50.0 百万ヘクタールと前年度に比べ 4.5%増加し史上最高となる見込み。単収も 4.35 トン/ヘクタールと、前年度（4.32 トン/ヘクタール）と比べ 0.7%増と史上最高となる見込み。

インド農業・農民福祉省（2024.11.5）によると、2024/25 年度のカリフ米生産量は、前年度（113.2 百万トン）から 5.9%増の 120 百万トンとなる見込み。カリフ米の作付面積は前年度（40.45 百万ヘクタール）から 2.5%増加し 41.45 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、旺盛な国内需要から前年度比 4.0%増の 121.0 百万トンとなる見込み。なお、国民の食料安全保障を確保するため、食料安全保障法に基づき、公的食料配給制度（PDS）が実施されており、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。

USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、インド政府の輸出規制撤廃等を受け、前年度比 49.0%増の 21.5 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持し、世界全体のコメ輸出総量の約 37%を占める。2023/24 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、国内生産量の減少及び輸出規制強化から 14.4 百万トンと、前年度比 29.1%減。

インド輸出入統計によれば、2024 年 10 月の輸出量は 164.2 万トンで、主な輸出先国は、ベナン 18.9 万トン（国別シェア 11.5%）、コートジボアール 12.1 万トン（同 7.4%）、トーゴ 11.8 万トン（同 7.2%）の順。ベナン等のアフリカ諸国向けは非バスマティ米の輸出が主である。インド政府は、2022 年 9 月 9 日以降、非バスマティ米を中心に、輸出規制を発動・強化してきたが、史上最高の増産予測及び農家・輸出者からの要請を受け、2024 年 9 月 14 日に、バスマティ米の最低輸出価格の撤廃を発表した。また 9 月 27 日には、粳米、玄米、パーボイルド米の輸出関税を 20%から 10%への引き下げを発表。更に、10 月 23 日には、非バスマティ米の輸出禁止措置の撤廃を発表した。また、インド政府は、2025 年 1 月 1 日、インドネシア政府と年間 100 万トンの非バスマティ米の貿易に関する覚書を調印、閣議決定したと発表した。

インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、12 月時点での期末在庫量は、28.03 百万トン（精米）と前年に比べ 52.7%増の見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予 測 値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	135.8	137.8	145.0 (144.5)	-	5.2	
消 費 量	114.5	116.4	121.0 (121.0)	-	4.0	
輸 出 量	20.3	14.4	21.5 (21.1)	-	49.0	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	35.0	42.0	44.5 (44.1)	-	6.0	
期末在庫率	26.0%	32.1%	31.2% (31.0%)	-	▲ 0.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	47.83	47.83	50.00 (50.00)	-	4.5	
単収(粳t/ha)	4.26	4.32	4.35 (2.89)	-	0.7	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024) (単収は精米t/ha)

表 インドのコメ輸出規制(2024 年 10 月 23 日時点)

対象品目	措置内容
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出関税 (10%)
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出関税 (10%)
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	輸出関税：12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t)
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出関税 (10%)
バスマティ米・パーボイルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出再開
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可
※有機米は本措置の対象外
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.8%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、26.5 百万トンと、前年度を 0.8%上回る見込み。2016/17 年度以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流量減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、作付面積は減少傾向にあったが、2024/25 年度の収穫面積は 6.95 百万ヘクタールと昨年と比べ 0.7%増加する見込み。2023/24 年度の実生産量は、前月予測から変更はなく、26.3 百万トンと前年度に比べ 0.8 百万トン減少する見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.12 及び 2025.1）によると、紅河デルタ地域（北部）では雨季米の収穫が終わり、単収は 5.36 トン/ヘクタールと、台風 11 号「ヤギ」の影響を受け、昨年より 1.9%減少する見込み。冬作物（トウモロコシ、ジャガイモ等）の作付期のため、乾季米（冬春作）の作付けはまだ始まっていない。メコンデルタ地域（南部）では、雨季米（夏秋作と冬作）が収穫期にあり、作付面積 1.26 百万ヘクタールのうち、収穫面積は 0.68 百万ヘクタールであり、温暖な天候と灌漑整備が進み、単収は、昨年より 3.3%増の 5.8 トン/ヘクタールの見込み。乾季米（冬春作）は、作付けが始まっており、作付面積は 1.27 百万ヘクタールとのこと。メコンデルタ地域は、海水の浸潤による農業用水の不足が懸念されている。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2025.1.14）によれば、2024/25 年度の輸入量は、前年度に比べ 10.5%減の 3.4 百万トンとなる見込み。ベトナムのコメ輸入の大部分をカンボジアが占めており、カンボジアで精米されたほとんどがベトナム向けに出荷され、残りはインドから輸入している。

USDAによれば、2024/25 年度の輸出量は、インドネシア政府調達への減少及び世界第 1 位のコメ輸出国であるインドが非バスマティ米の輸出規制撤廃等を実施したことによる同国との競争激化が予想され、前月予測から 0.3 百万トン下方修正、前年度から 16.7%減少し、7.5 百万トンとなる見込み。

ベトナム税関総局によれば、2024 年 1～12 月の輸出量は 903.4 万トンと、前年同期（813.2 万トン）に比べ 11.1%増加。主な輸出先国は、フィリピン 422.1 万トン（国別シェア 46.7%）、インドネシア 125.7 万トン（同 13.9%）、マレーシア 71.9 万トン（同 7.9%）、ガーナ 61.3 万トン（同 6.7%）の順。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.1.10）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の 1 月 7 日までの週の価格は、主力市場であるフィリピンの需要低迷を反映し、前月 12 月 10 日までの週から 59 ドル/トン下落し、449 ドル/トンとなった。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	26.3	26.5 (28.6)	-	0.8
消費量	22.4	22.4	22.4 (22.7)	0.1	-
輸出量	8.2	9.0	7.5 (7.3)	▲ 0.3	▲ 16.7
輸入量	3.3	3.8	3.4 (2.2)	-	▲ 10.5
期末在庫量	3.4	2.1	2.1 (3.1)	0.6	-
期末在庫率	11.0%	6.6%	6.9% (10.2%)	2.1	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.12	6.90	6.95 (7.12)	-	0.7
単収(畝t/ha)	6.10	6.10	6.10 (4.02)	-	-

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024) (単収は精米t/ha)

図 長粒種の FOB 価格の推移
(2024 年 1 月 7 日～2025 年 1 月 7 日)



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2025.1.10)より

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 前月比

・米国、ロシア、中国で下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

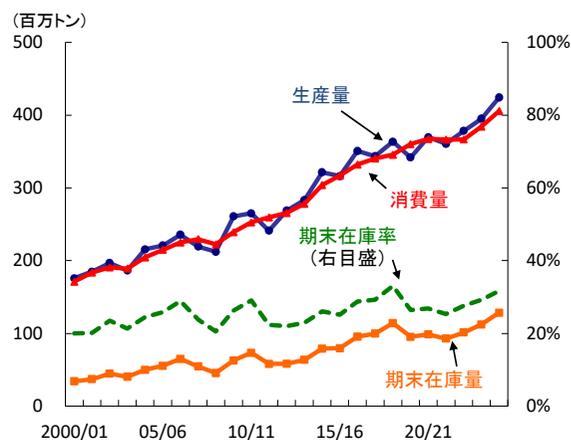
消費量 前年度比 前月比

・ブラジル、ベトナム等で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・前月予測からの変更はなく、前年度から増加し、史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省で作成

◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

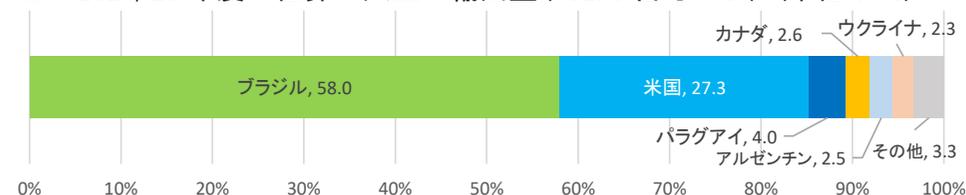
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	378.2	395.0	424.3	▲ 2.9	7.4
消費量	366.7	384.3	405.5	▲ 1.9	5.5
うち搾油用	315.6	331.2	349.3	▲ 1.9	5.4
輸出量	171.8	177.6	182.0	-	2.4
輸入量	168.6	178.1	179.2	▲ 1.1	0.7
期末在庫量	101.2	112.4	128.4	▲ 3.5	14.2
期末在庫率	27.6%	29.2%	31.7%	▲ 1.0	2.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 January 2025)

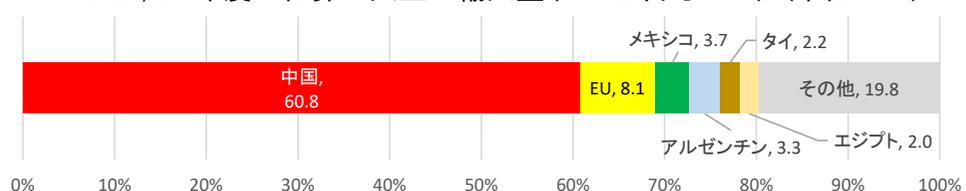
○ 2024/25年度の世界の大豆の生産量(424.3百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界の大豆の輸出量(182.0百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界の大豆の輸入量(179.2百万トン)(単位：%)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は前年度から 4.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 4.9%増の 118.8 百万トンと史上 4 番目の見通し。作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。ただし、1 月の需給報告において、カンザス州、ノースダコタ州、サウスダコタ州等の収穫面積が引き下げられ、インディアナ州、カンザス州、イリノイ州、アイオワ州、オハイオ州等の単収が引き下げられたことを受けて、生産量は前月予測から 2.6 百万トン下方修正された。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からわずかに上方修正され、大豆油等の需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 4.8%増の 68.7 百万トンで史上最高の見込み。

USDA 「Oil Crops Outlook」(2025.1.14) によれば、2024 年 9～11 月の大豆搾油量は、前年同期より 6%増の 15.6 百万トンの見込み。パーム油等の他の油糧種子の供給減を受けて、米国産の大豆油が相対的に安価となっており、12 月の大豆油の輸出量は 14.8 万トンと、2010 年以降で最大となっている。なお、国内の今後のバイオ燃料政策が不透明であることを背景に、搾油業者は海外向けに販売する意向であるため、2024/25 年度の実大豆油の国内消費量は減少し、大豆油の輸出量は増加するとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 7.7%増の 49.7 百万トンの見込み。

USDA によれば、2024 年 9～12 月の輸出量は 2,665.7 万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の 2,324.2 万トンより 15%増。内訳は中国 1,530.5 万トン (国別シェア 57.4%)、メキシコ 171.4 万トン (同 6.4%)、イタリア 154.7 万トン (同 5.8%) の順となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引下げを受けて前月予測から 2.5 百万トン下方修正されたものの、増産を受けて前年度より 10.9%増の 10.3 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前月予測から 2.1 ポイント下方修正され 8.7%と、前年度 (8.3%)、過去 5 年平均 (8.0%) を上回っている。

大豆－米国

(概ね 5～6 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 9月～25年 8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.2	113.3	118.8	▲ 2.6	4.9
消費量	63.3	65.6	68.7	0.03	4.8
うち搾油用	60.2	62.2	65.6	-	5.4
輸 出 量	53.9	46.1	49.7	-	7.7
輸 入 量	0.7	0.6	0.5	0.1	▲ 5.3
期末在庫量	7.2	9.3	10.3	▲ 2.5	10.9
期末在庫率	6.1%	8.3%	8.7%	▲ 2.1	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.87	33.29	34.82	▲ 0.09	4.6
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.41	▲ 0.07	0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)

図 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 2024/25 年度の生産量は前年度から 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。

CONAB の月例報告（2025.1.14）によれば、2024/25 年度の実生産量は、とうもろこしから収益性が高い大豆に作付けがシフトすること等による作付面積の増加を受けて前年度より 12.6%増の 166.3 百万トンの見通し。1 月上旬時点の作付進捗率は 98.5%と概ね完了。主要生産州の中西部のマット・グロッソ州において、12 月後半から収穫が開始された。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2025.1.14) によれば、1 月上旬、主要生産州の中西部マット・グロッソ州において降雨があり、大豆の生育に適した土壌水分量が維持されているとみられる。ただし、南部においては、乾燥が続く、土壌水分量が限定され、単収の減少に対する懸念が高まっている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の実消費量は、搾油用消費の引上げを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度より 0.9%増の 59.1 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国からの引き続き堅調な需要等により、前年度から 1.3%増の 105.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～12 月の輸出量は 98.8 百万トンで、前年同期（101.9 百万トン）に比べ 3.0%減となるも、中国向け輸出は引き続き堅調に推移している。輸出先は、中国 72.6 百万トン（国別シェア 73.4%）、スペイン 4.2 百万トン（同 4.2%）、タイ 3.5 百万トン（同 3.5%）の順。

報道情報（2024.12.9）によれば、12 月上旬、アマゾン川南部の 2 つの主要な支流（タパジヨス川、マデイラ川）において、降雨による水位の回復を受けて、数カ月間停止されていたはしけへの穀物等の積み込み作業が再開された。ブラジルでは、従来からの主要な穀物輸送手段であるトラック輸送に加え、近年では鉄道輸送網が整備されており、2023 年 6 月、北部マラニオン州イタキ港と南部サンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。アマゾン川の水運も主要な輸送手段の一つとなっているものの、商社等の情報によれば、アマゾン川経由での北部港からの輸出は主に EU、エジプト向けのため、アマゾン川の水位低下による我が国向け輸出への影響は小さいとみられる。

大豆—ブラジル

（概ね 9～12 月に作付けされ、1～4 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はCONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	162.0	153.0	169.0 (166.3)	-	10.5
消費量	57.2	58.6	59.1 (60.2)	1.0	0.9
うち搾油用	53.4	54.7	55.0 …	1.0	0.5
輸出量	95.5	104.2	105.5 (105.5)	-	1.3
輸入量	0.2	0.9	0.2 (0.5)	-	▲ 82.8
期末在庫量	36.8	28.0	32.5 (2.2)	▲ 1.0	16.3
期末在庫率	24.1%	17.2%	19.8% (1.3%)	▲ 0.7	2.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	44.60	46.10	47.30 (47.40)	-	2.6
単収(t/ha)	3.63	3.32	3.57 (3.51)	-	7.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
CONAB 「Graos」(14 January 2025)

写真 中西部マット・グロッソ州の大豆の圃場風景 (2024 年 12 月 26 日撮影)



当圃場の作付作業は 2024 年 10 月 13 日に行われ、収穫作業は 2025 年 1 月 25 日に見込まれている。生育は良好で、病気はほぼ発生していない。

撮影者：Juliana Silva

< カナダ > 2024/25 年度の生産量は前年度から 8.4%増加する見込み (AAFC)

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2025.1.20)によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、東部での収穫面積と単収の増加等により、前年度 (7.0 百万トン) から 8.4%増の 7.6 百万トンの見込み。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2024」(2024.12.5)によれば、州別には、米国コーンベルトに隣接する最大生産州オンタリオ州の実生産量は、前年度に比べ 7.9%増の 4.4 百万トンの見込み。とうもろこし等の他作物より価格が有利な大豆の作付けを増加させたため収穫面積が増加する (対前年度比 7.0%増) ことが主な要因とみられる。隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されており、マニトバ州では、収穫面積は減少 (同 10.9%減) したものの、生育後期の良好な生育条件から単収が大きく増加 (同 21.5%増) したことを受け前年度より 8.3%増の 1.7 百万トン、ケベック州では収穫面積 (同 3.4%増)、単収 (同 5.8%増) とともに増加し、前年度より 9.3%増の 1.4 百万トンの見込み。ケベック州西部においても平年以上の降雨と夏の温暖な気候を受けて単収が向上したとみられる。

なお、AAFCによれば、2025/26 年度の作付面積は、大豆価格の低下を受けて農家が他作物に作付けをシフトさせることが見込まれることから、2024/25 年度 (231 万ヘクタール) から 6.9%減の 215 万ヘクタールの見込み。

【需要状況】AAFCによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用等の需要の増加により前年度 (2.2 百万トン) から 11.4%増の 2.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給増を受けて前年度 (4.9 百万トン) より 12.3%増の 5.5 百万トンと史上 2 番目の高水準となる見込み。

カナダ穀物委員会によれば、2024/25 年度 (2024 年 8～11 月) の輸出量は 227.7 万トンで、前年同期 (171.7 万トン) を上回っている。国別では、中国 71.2 万トン (国別シェア 31.3%)、イラン 40.3 万トン (同 17.7%)、アルジェリア 20.5 万トン (同 9.0%) の順となっている。

AAFCによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度から 6.6%増の 0.6 百万トンの見込み。

大豆—カナダ

(概ね 5～6 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

(単位: 百万トン)

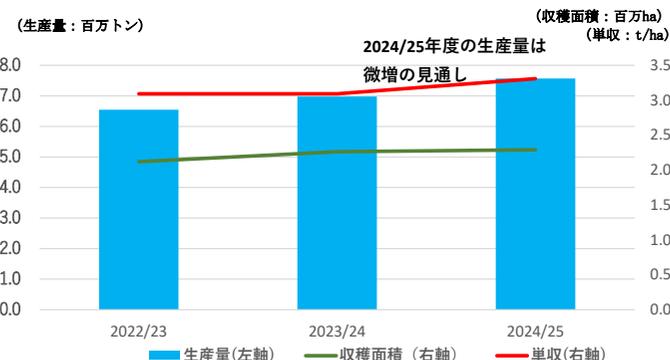
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.5	7.0	7.6 (7.6)	-	8.4
消費量	2.7	2.3	2.9 (2.5)	-	25.1
うち搾油用	1.8	1.7	1.8 (1.9)	-	5.9
輸出量	4.2	4.8	4.8 (5.5)	-	▲ 0.9
輸入量	0.5	0.3	0.4 (0.5)	-	4.5
期末在庫量	0.4	0.6	0.8 (0.6)	-	47.6
期末在庫率	5.3%	7.9%	10.9% (7.5%)	-	3.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.29 (2.29)	-	1.3
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.30 (3.31)	-	6.8

資料: USDA「PS&D」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 January 2025)

図 カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料: AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2025.1.20) をもとに
農林水産省にて作成

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、史上最高の前年度から 0.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、中国国家统计局の報告における収穫面積の引下げを受けて、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、前年度より 0.9%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目に高い見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は、前年から 0.9%減の 20.7 百万トンとなる見込み。単収は 2.00 トン/ヘクタールと前年から 0.5%増加したものの、作付面積は 10.34 百万ヘクタールと前年より 1.4%減少することによる。

中国政府は、2024 年、大豆生産の安定化に向け、大豆生産者への補助金の増額等の政策による生産者支援を拡大している。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.9 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局（2025.1.17）によれば、2024 年の食肉生産量は 9,663 万トンと、前年比で 0.2%増。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.7%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 7.2%増の 112.0 百万トンとなる見込み。なお、中国海関統計によれば、2024 年 1～11 月の輸入量は、前年同期より 9.4%増の 9,709.4 万トン。内訳は、ブラジル 7,171.4 万トン（73.9%）、米国 1,788.0 万トン（18.4%）、アルゼンチン 383.8 万トン（4.0%）の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 11 月号」によると、11 月の国内価格は、国内在庫の市場への供給を受け、4,300 元/トンと前月（4,380 元/トン）から下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引下げを受けて前月予測からわずかに下方修正されたものの、生産量と輸入量の合計が消費量を上回っていることを受けて、前年度より 6.1%増の 46.0 百万トンと史上最高の見込み。

大豆—中国

（概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	20.3	20.8	20.7 (20.1)	▲ 0.1	▲ 0.9	
消費量	117.5	121.8	126.9 (127.8)	-	4.2	
うち搾油用	96.0	99.0	103.0 (105.8)	-	4.0	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9	
輸 入 量	104.5	112.0	109.0 (108.5)	-	▲ 2.7	
期末在庫量	32.3	43.3	46.0 (46.9)	▲ 0.05	6.1	
期末在庫率	27.5%	35.5%	36.2% (36.7%)	▲ 0.04	0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.24	10.47	10.33 (10.16)	▲ 0.17	▲ 1.3	
単収(t/ha)	1.98	1.99	2.00 (1.97)	0.03	0.5	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

表 中国の大豆輸入量と輸入先国

（輸入量：万トン、シェア：%）

2024年 1月～11月			2023年 1月～12月			2022年 1月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	7,171.4	73.9	ブラジル	6,993.0	70.7	ブラジル	5,439.3	61.0
米国	1,788.0	18.4	米国	2,374.3	24.0	米国	2,780.2	31.2
アルゼンチン	383.8	4.0	アルゼンチン	199.2	2.0	アルゼンチン	351.8	3.9
ウルグアイ	121.2	1.2	カナダ	146.6	1.5	ウルグアイ	178.8	2.0
カナダ	100.7	1.0	ロシア	129.3	1.3	カナダ	71.9	0.8
ウクライナ	61.5	0.6	南アフリカ	14.7	0.1	ロシア	69.4	0.8
その他	82.9	0.9	その他	38.6	0.4	その他	30.4	0.3
計	9,709.4	100.0	計	9,895.7	100.0	計	8,921.8	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 7.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 7.9%増の 52.0 百万トンの見込み。増産の主な要因は、大豆の収益性が高まっていることに加え、農家が病害虫のヨコバイによる被害懸念からとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせることによる。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2025.1.14) によれば、1 月上旬、主要生産地の中部及び東部では乾燥が続き、大豆の生育に悪影響を与えている。1 月 9 日現在、作付進捗率は 96%と、前年同期 (95%) を上回っている。

ブエノスアイレス取引所週報 (2025.1.16) によれば、水分量が「最適～適切」の割合が前週から 17 ポイント減少するとともに、作柄が「良好～正常」の割合は 10 ポイント減少しており、水分量の低下に伴い作柄が悪化しているため、降雨が必要とされている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が増加することから、前年度比 10.9%増の 48.6 百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 23.0%減の 6.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受けて前年度より 11.9%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

なお、アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～11 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 459.0 万トンで前年同期 (182.3 万トン) の 2.5 倍。輸出先は、中国 391.9 万トン (国別シェア 85.4%)、米国 12.3 万トン (同 2.7%)、チリ 5.9 万トン (同 1.3%) の順で、4 月以降、中国向け輸出が急増しており、中国向け輸出量は、前年同期比 144%増。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定していたが、2025 年 1 月 25 日、1 月 27 日～6 月 30 日まで一時的に大豆を 26%、大豆油及び大豆粕を 24.5%に引き下げると発表した。

大豆－アルゼンチン

(早植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、3～7 月に収穫。
遅植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、4～7 月に収穫。)

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.0	48.2	52.0 (51.5)	-	7.9
消費量	36.6	43.8	48.6 (48.9)	-	10.9
うち搾油用	30.3	36.6	41.0 (42.4)	-	12.1
輸 出 量	4.2	5.1	4.5 (5.7)	-	▲ 11.9
輸 入 量	9.1	7.8	6.0 (5.7)	-	▲ 23.0
期末在庫率	17.0	24.1	29.0 (12.6)	▲ 0.03	20.4
	41.7%	49.1%	54.5% (23.2%)	▲ 0.1	5.4

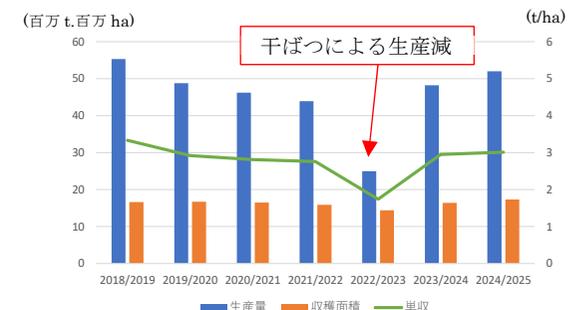
(参考)

収穫面積(百万ha)	14.40	16.37	17.30 (17.00)	-	5.7
単収(t/ha)	1.74	2.95	3.01 (3.03)	-	2.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)

IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 アルゼンチン産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料: USDA 「PS&D」(2025.1.10) をもとに農林水産省にて作成

写真 北部サンタフェ州の大豆の圃場風景 (2024 年 12 月 27 日撮影)



本圃場では大豆の作付作業が 2024 年 11 月上旬に行われ、現在の生育ステージは開花期にある。収穫作業は 2025 年 4 月前半を予定。

撮影者: José Daniel Peloni

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2024/25年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国

1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
------------	-----	-----	-----

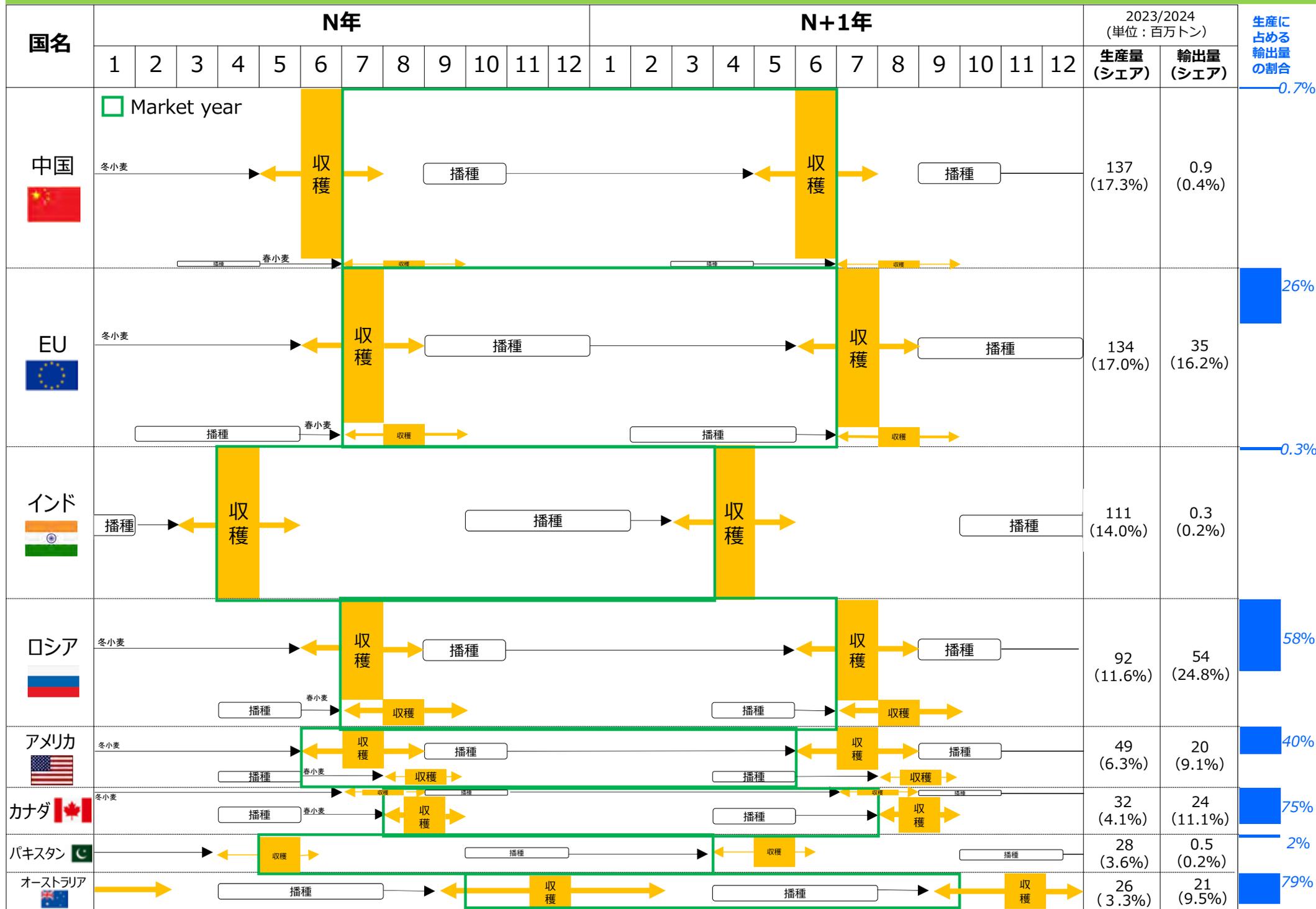
1斤	500g	重量	中国
----	------	----	----

華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			
---	--	--	--

(参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



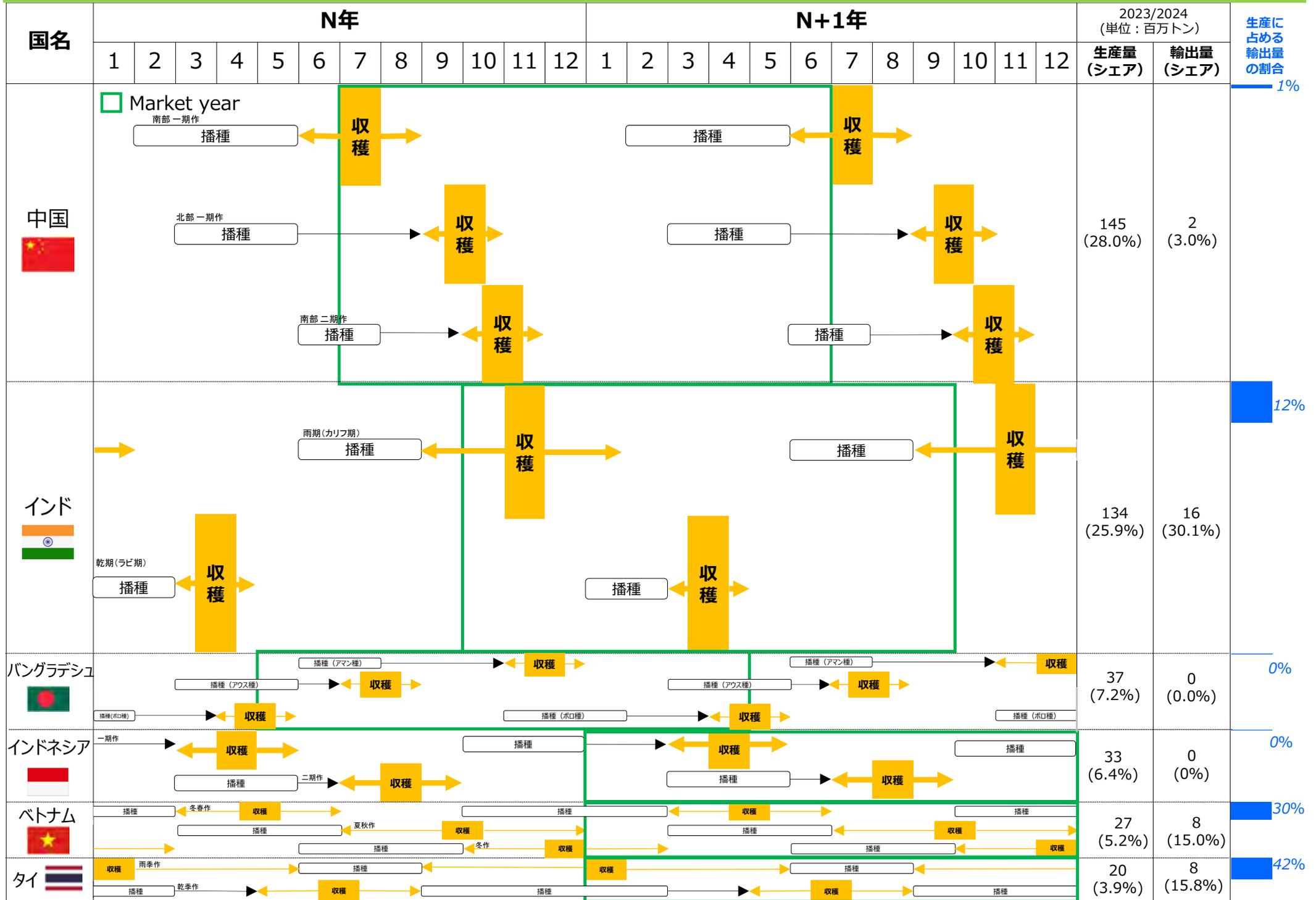
資料: AMIS [Supply and demand balances manual]、USDA [Crop Calendars]、[PS&D] (2024.5)

注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他:

主要生産国のクロープカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「Crop Calendar」、「PS&D」 (2024.5)

注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他: 122 (23.5%) 19 (36.1%)

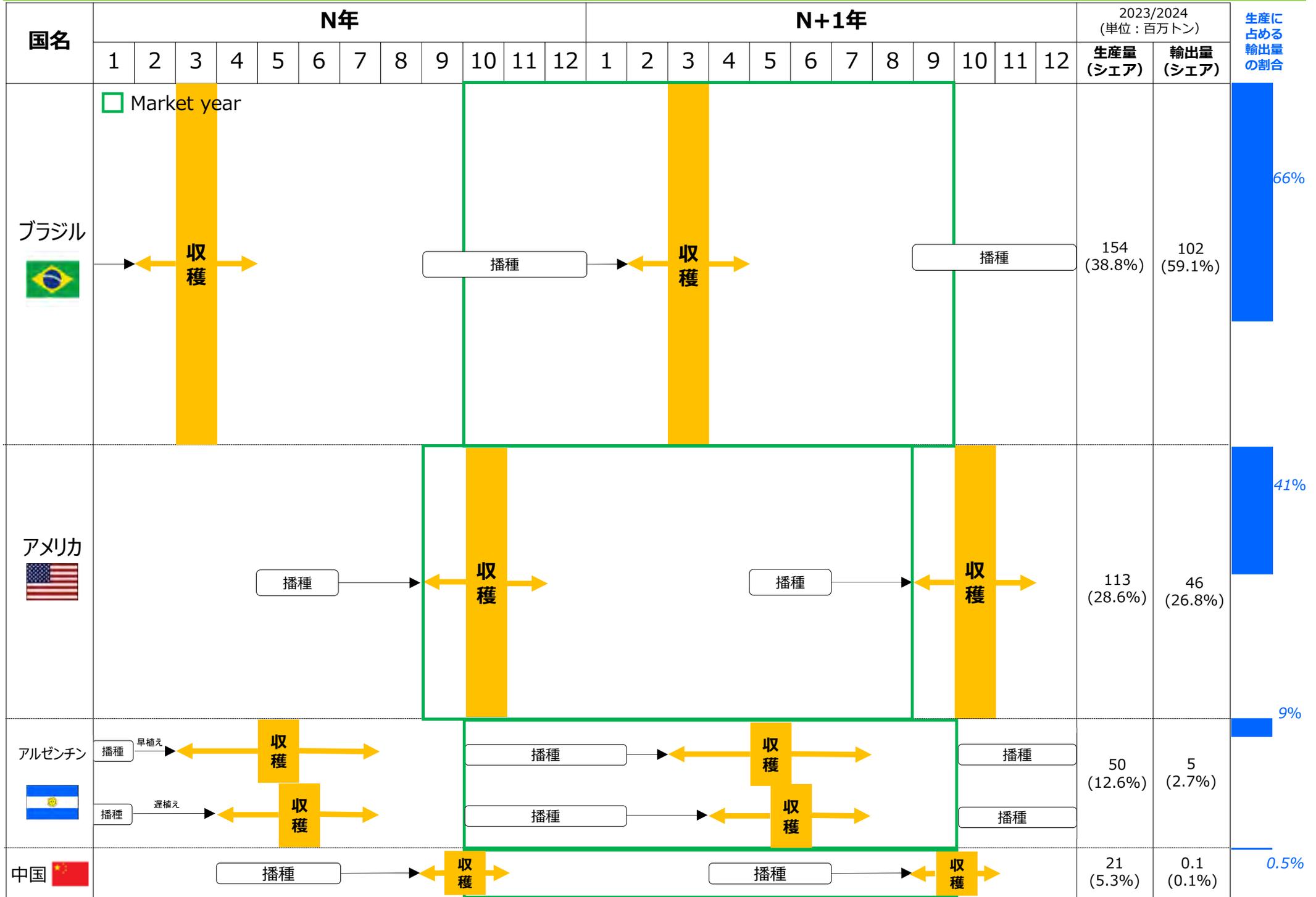
主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
アメリカ 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> 播種 → 収穫 (9-10月)												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%												
中国 	播種 (春作) → 収穫 (8-9月) 播種 (夏作) → 収穫 (5-6月)												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%												
ブラジル 	夏とうもろこし 播種 → 収穫 (10-11月) 冬とうもろこし 播種 → 収穫 (5-6月)												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%												
EU 	播種 → 収穫 (9-10月)												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%												
アルゼンチン 	播種 → 収穫 (11-12月)												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%												
インド 	乾期(ラビ期) 播種 → 収穫 (1-2月) 雨期(カリフ期) 播種 → 収穫 (7-8月)												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%												
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」(2024.5) 注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。																							276 (22.5%)	50 (25.2%)	その他：		

主要生産国のクロープカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」(2024.5)注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。その他:

59 (14.8%)
20 (11.3%)

主要生産国のクロープカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に占める輸出量の割合		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量(シェア)	輸出量(シェア)			
EU 	Market year						収穫	播種						収穫	播種						20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%						
カナダ 						播種	← 収穫 →						播種	← 収穫 →						19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%							
中国 						← 収穫 →						播種	← 収穫 →						播種						15 (17.4%)	0 (0%)	0%		
インド 						← 収穫 →						播種	← 収穫 →						播種						13 (14.1%)	0 (0%)	0%		
オーストラリア 						播種	← 収穫 →						播種	← 収穫 →						播種	← 収穫 →						6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%
ウクライナ 						← 収穫 →	播種						← 収穫 →	播種						← 収穫 →	播種						4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%
ロシア 						播種	← 収穫 →						播種	← 収穫 →						播種	← 収穫 →						4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%

資料：USDA「Crop Calendar」、「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している

その他：7 (8.4%) 0.7 (4.5%)

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

(1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

(2) 農林水産関係機関の情報（ALICの情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

(3) その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が2025年1月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度2024/25年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<p>連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)</p>
--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10年先）、超長期（30年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html

